

(通巻第23号)

平成24年度事業報告書

社会福祉法人 福栄会

目 次

法人事業報告（概況）	1
事務部事業報告	2
総務課	11
栄養課	16
高齢者福祉部事業報告	18
晴楓ホーム	20
東海ホーム	25
在宅サービス課	28
東品川在宅介護支援センター 大崎在宅介護支援センター	
東品川在宅サービスセンター 大崎在宅サービスセンター	
品川区立ハツ山保育園・品川区立五反田保育園ふれあいデイホーム	
品川区ヘルパーステーション東品川 機能回復訓練 東品川わかくさ荘	
障害者福祉部事業報告	40
知的障害者福祉部門	
第一しいのき学園	42
第二しいのき学園	
品川区立西大井福祉園	
品川区立西大井つばさの家	
グループホーム森前	
品川区立かがやき園	
精神障害者福祉部門	
かもめ第一・第二・第三工房	78
品川区精神障害者地域生活支援センター	
児童福祉部事業報告	87
品川区立家庭あんしんセンター	88
品川区ひまわり荘 品川区子育て支援センター 品川区子育て短期支援事業	
平塚ファミリー・サポート・センター 平塚きぼう荘	
品川区立品川児童学園	94
児童発達支援センター（旧知的障害児通園施設・旧子ども発達相談）	
児童発達支援（旧品川区児童デイサービス）	

事務部事業報告 目次

事務部事業報告	2
1．基本方針の遵守	
2．重点目標への対応	
3．地域活動	
4．会議について	
5．研修について	
6．防災計画について	
7．施設設備管理の点検強化	
8．苦情解決について	
総務課事業報告	11
1．基本方針の遵守	
2．重点目標への対応	
3．事務の執行	
4．地域活動	
5．施設管理（営繕）体制	12
6．防災対策	
7．広報	
8．職員について	13
9．その他	14
栄養課事業報告	16
1．基本方針の遵守	
2．重点目標への対応	
3．サービスの実際	
4．各施設との連携	
5．厨房設備等の整備	
6．給食状況	
7．特別献立実施状況	
8．給食委員会実施状況	
9．職員研修	

高齢者福祉部事業報告 目次

高齢者福祉部事業報告	18
晴楓ホーム事業報告	20
東海ホーム事業報告	25
在宅サービス課事業報告	28
在宅介護支援センター事業報告	30
品川区東品川在宅介護支援センター	
品川区大崎在宅介護支援センター	
在宅サービスセンター事業報告	32
東品川在宅サービスセンター	
品川区立大崎在宅サービスセンター	
品川区立ハツ山保育園ふれあいデイホーム	
品川区立五反田保育園ふれあいデイホーム	
品川区ヘルパーステーション東品川事業報告	36
機能回復訓練事業報告	37
東品川わかくさ荘事業報告	38

障害者福祉部事業報告 目次

障害者福祉部事業報告	4 0
------------------	-----

[知的障害者福祉部門]

第一しいのき学園事業報告	4 2
--------------------	-----

第二しいのき学園事業報告	4 4
--------------------	-----

品川区立西大井福祉園事業報告	6 0
----------------------	-----

品川区立西大井つばさの家事業報告	6 9
------------------------	-----

グループホーム森前事業報告	7 3
---------------------	-----

品川区立かがやき園事業報告	7 6
---------------------	-----

品川区立かがやき園短期入所事業報告	7 7
-------------------------	-----

[精神障害者福祉部門]

かもめ第一・第二・第三工房事業報告	7 8
-------------------------	-----

品川区精神障害者地域生活支援センター事業報告	8 3
------------------------------	-----

児童福祉部事業報告 目次

児童福祉部事業報告	87
-----------------	----

[品川区立家庭あんしんセンター]

品川区ひまわり荘事業報告	88
--------------------	----

品川区子育て支援センター事業報告	92
------------------------	----

品川区子育て短期支援事業報告	92
----------------------	----

平塚ファミリー・サポート・センター事業報告	93
-----------------------------	----

平塚きぼう荘事業報告	93
------------------	----

[品川区立品川児童学園]

児童発達支援センター事業報告	94
(旧知的障害児通園施設・旧子ども発達相談)	

児童発達支援事業事業報告	97
(旧品川区児童デイサービス)	

平成24年度 法人事業報告（概況）

社会福祉法人福栄会は、総合福祉施設としてサービスの質の向上と、健全な法人経営に努めました。利用者やご家族を始め、地域の期待に応えるため、新たに認知症対応型通所介護事業を増設しました。

平成24年度の主な成果

- (1) 東品川在宅サービスセンターにおいて平成24年12月認知症対応型通所介護事業「福栄会の家 なごみ」を東品川わかくさ荘1階（品川区バリアフリー住まい館跡）に開設しました。また、大崎在宅サービスセンター・在宅介護支援センターの新施設移転に向けた準備を行いました。
- (2) 障害者支援施設においては、加齢障害者への適切な支援に向け介護技術の向上を進めるとともに、相談支援体制の強化を図るため、福栄会障害者相談支援センターについて平成25年4月の開設に向け準備を行いました。
- (3) 第二期中期修繕計画（平成22年度～平成26年度）に基づき、本部建物の空調・給排水設備更新工事を平成24年10月に着工し、年度末までに全体工事の8割について予定通り実施しました。工事完了は、平成25年5月末の予定で順調に進めています。
- (4) 再構築した人事・給与制度を着実に実行するとともに、「福栄会キャリアパス・CPF」に基づく研修計画に沿って、管理職・中間指導職の職層毎に、法人経営研修、経営基礎研修を実施し、人材の育成を図りました。
- (5) 介護保険施設、障害者支援施設の利用率は下記の通りとなりました。
実績：介護老人福祉施設95%、通所介護施設80.1%、
障害者施設101.2%

事務部事業報告

1. 基本方針の遵守

介護報酬の改正、障害者自立支援法の見直しに際し、適切かつ効率的な事業の執行に努めてきました。法人事務局としての機能の充実も図りました。

2. 重点目標への対応

(1) 法人事務局として安定したサービスの提供

法人事務局として各施設が主体的な経営が行なえるように努めました。

また、業務の適正執行、総合的調整、統一的処理の観点から介護報酬、障害者支援費等の請求に関する事務の執行体制を整えました。

(2) 理事会、評議員会、運営会議等各種会議の機能充実

新規事業等の審議のために理事会（7回）・評議員会（3回）を開催し、その機能の充実を図りました。

(3) コンピューターシステムの更新

高齢者福祉部の各事業所と調整を行いながら、新たなシステムの導入を図りました。

(4) 第二期中期修繕計画の実施

第二期中期修繕計画に基づき空調・給排水設備更新工事について、品川区・東京都及び福祉医療機構等関係機関と連携を密にとり実施しました。

(5) 人事給与制度に基づいた、介護職員等の人材確保・育成

福栄会キャリアパスに基づいた人事・給与制度の細目の検討、研修計画に基づく管理職・中間指導職等の研修を実施しました。

3. 地域活動について

- (1) 平成24年度の第20回「福栄会まつり」は、昨年度に引き続き、東日本大震災後の復興を応援するため、被災地から避難している方々をご招待するとともに、参加者から義援金を募り総額「221,120円」を品川区役所へ届けました。
当日は地域と共に開催することを目標に掲げ、27団体、27店舗もご出店協力をしていただき、概ね1,500人も参加者がありました。
- (2) 在宅の高齢者・障害者、児童等及びその家族の福祉の向上と、在宅福祉の推進のための社会福祉施設地域開放事業として、福栄会の各施設にある作業室や訓練室・介護者教室や食堂、会議室等を町会等地域6団体に延べ30日間貸出しました。
また、歩行困難者等へ法人保有の福祉車両を5回貸出しました。その他にはテントや綿あめ機等行物品を8団体に9回貸出し、近隣の町会祭等開催時には施設の敷地を臨時駐車場として無料開放しました。
- (3) 品川菜園（清水橋資材置き場）について、老朽化していた入口門扉を修理するなど環境を整えました。第二しいのき学園利用者や緑化ボランティアがさつま芋・ピーナッツを栽培し、品川児童学園児が収穫しました。品川菜園の収穫祭には地域の方々も参加され、豚汁等の無料配布も行いました。

4. 会議について

- (1) 理事会開催状況
- 第1回理事会 平成24年5月28日(月)
 - 第1号議案 平成23年度事業報告について
 - 第2号議案 平成23年度指定管理者事業報告について
 - 第3号議案 平成23年度決算について
 - 第4号議案 平成24年度第1回補正予算について
 - 第5号議案 認知症対応型通所介護の増設に伴う施設整備工事の入札について
 - 第6号議案 指定訪問介護等事業運営規程
(品川区ヘルパーステーション東品川)の改正について
 - 第7号議案 品川区精神障害者地域生活支援センターの特定相談支援事業の
指定申請および同センターの運営規程の改正について
 - 第8号議案 品川区立西大井つばさの家管理運営規程の改正について
 - 第9号議案 グループホーム森前運営規程の改正について
 - 第10号議案 東京都実地検査の結果について
- 報告事項
平成23年度福祉サービス第三者評価結果について

第一しいのき学園・第二しいのき学園 西大井福祉園
かもめ第一工房・かもめ第二工房・かもめ第三工房
平成24年度 契約の締結について
社会福祉施設への自家発電装置緊急整備事業の完了について
「福栄会震災マニュアル」の改正について
その他

第2回理事会 平成24年8月1日(水)
第1号議案 本部施設空調設備及び給排水設備更新工事の実施について
第2号議案 幹部職員の任免について
報告事項
平成25年度職員採用計画について
平成24年度第1回苦情解決・サービス向上第三者委員会について
認知症対応型通所介護の増設に伴う改修工事の入札結果について
その他

第3回理事会 平成24年9月3日(月)
第1号議案 本部施設空調設備及び給排水設備更新工事の入札参加条件
並びに予定価格の設定について
第2号議案 独立行政法人福祉医療機構福祉貸付資金借入の申込及び公益財団法人
東京都福祉保健財団による独立行政法人福祉医療機構借入金利子補給の
申請について

第4回理事会 平成24年10月22日(月)
第1号議案 本部施設空調設備及び給排水設備更新工事の契約について
第2号議案 独立行政法人福祉医療機構福祉貸付資金借入の申請について
第3号議案 公益財団法人東京都福祉保健財団による独立行政法人福祉医療機構
借入金利子補給の申請について
第4号議案 東品川在宅サービスセンター(併設型指定介護予防認知症対応型通所
介護及び併設型指定認知症対応型通所介護)単位の追加について
第5号議案 東品川在宅サービスセンター(併設型指定介護予防認知症対応型通所
介護及び併設型指定認知症対応型通所介護)運営規程の改正について
第6号議案 品川区立ハッ山保育園ふれあいデイホーム運営業務委託の終了に
ついて
第7号議案 平成24年度第2回補正予算について

報告事項

平成25年度職員採用試験結果について

本部施設空調設備及び給排水設備更新工事の施工概要及び晴楓ホームショートステイの休止について

第5回理事会 平成24年12月14日(金)

第1号議案 本部施設空調設備及び給排水設備更新工事の変更について

報告事項

平成24年度第二回苦情解決・サービス向上第三者委員会について

平成24年度上半期実績報告について

平成25年度運営計画について(意見交換)

第6回理事会 平成25年3月1日(金)

第1号議案 定款の変更について

第2号議案 福栄会障害者相談支援センターの開設について

第3号議案 福栄会障害者相談支援センターの特定相談支援事業の指定申請及び運営規程の制定について

第4号議案 品川区精神障害者地域生活支援センターの一般相談支援事業の指定申請及びの運営規程の制定について

第5号議案 品川区立品川児童学園の障害児通所支援事業の指定申請及び運営規程の改正について

第6号議案 品川区立品川児童学園児童デイサービス事業の終了について

第7号議案 就業規則の改正について

第8号議案 給与規程の改正について

第9号議案 経理規程等の改正について

第10号議案 本部施設空調設備及び給排水設備更新工事の変更について

第11号議案 平成24年度第3回補正予算(案)について

第12号議案 平成25年度事業計画(案)について

第13号議案 平成25年度指定管理業務事業計画(案)について

第14号議案 平成25年度当初予算(案)について

第15号議案 平成25年度契約の締結について

第16号議案 第13期 新理事・監事の選任について

第17号議案 平成25年度幹部職員の任免について

第18号議案 第13期評議員の選任同意について

報告事項

平成25年度新規採用職員状況について

冬期の感染症の罹患状況について
晴楓ホームショートステイの再開について

- 第7回理事会 平成25年3月8日(金)
- 第1号議案 理事長の互選について
- 第2号議案 理事の役割分担について

(2) 評議員会開催状況

- 第1回評議員会 平成24年5月28日(月)
- 第1号議案 平成23年度事業報告について
- 第2号議案 平成23年度指定管理者事業報告について
- 第3号議案 平成23年度決算について
- 第4号議案 平成24年度第1回補正予算について
- 第5号議案 認知症対応型通所介護の増設に伴う施設整備工事の入札について
- 第6号議案 指定訪問介護等事業運営規程
(品川区ヘルパーステーション東品川)の改正について
- 第7号議案 品川区精神障害者地域生活支援センターの特定相談支援事業の
指定申請および同センターの運営規程の改正について
- 第8号議案 品川区立西大井つばさの家管理運営規程の改正について
- 第9号議案 グループホーム森前運営規程の改正について
- 第10号議案 東京都実地検査の結果について

報告事項

平成23年度福祉サービス第三者評価結果について
第一しいのき学園・第二しいのき学園 西大井福祉園
かもめ第一工房・かもめ第二工房・かもめ第三工房
平成24年度 契約の締結について
社会福祉施設への自家発電装置緊急整備事業の完了について
「福栄会震災マニュアル」の改正について

- 第2回評議員会 平成24年10月22日(月)
- 第1号議案 本部施設空調設備及び給排水設備更新工事の契約について
- 第2号議案 独立行政法人福祉医療機構福祉貸付資金借入の申請について
- 第3号議案 公益財団法人東京都福祉保健財団による独立行政法人福祉医療機構
借入金利子補給の申請について
- 第4号議案 東品川在宅サービスセンター(併設型指定介護予防認知症対応型通所
介護及び併設型指定認知症対応型通所介護)単位の追加について

- 第 5号議案 東品川在宅サービスセンター（併設型指定介護予防認知症対応型通所介護及び併設型指定認知症対応型通所介護）運営規程の改正について
- 第 6号議案 品川区立ハッ山保育園ふれあいデイホーム運営業務委託終了について
- 第 7号議案 平成24年度第2回補正予算について

報告事項

平成25年度職員採用試験結果について

本部施設空調設備及び給排水設備更新工事の施工概要及び晴楓ホームショートステイの休止について

第3回評議員会 平成25年3月1日（金）

- 第 1号議案 定款の変更について
- 第 2号議案 福栄会障害者相談支援センターの開設について
- 第 3号議案 福栄会障害者相談支援センターの特定相談支援事業の指定申請及び運営規程の制定について
- 第 4号議案 品川区精神障害者地域生活支援センターの一般相談支援事業の指定申請及びの運営規程の制定について
- 第 5号議案 品川区立品川児童学園の障害児通所支援事業の指定申請及び運営規程の改正について
- 第 6号議案 品川区立品川児童学園児童デイサービス事業の終了について
- 第 7号議案 就業規則の改正について
- 第 8号議案 給与規程の改正について
- 第 9号議案 経理規程等の改正について
- 第10号議案 本部施設空調設備及び給排水設備更新工事の変更について
- 第11号議案 平成24年度第3回補正予算（案）について
- 第12号議案 平成25年度事業計画（案）について
- 第13号議案 平成25年度指定管理業務事業計画（案）について
- 第14号議案 平成25年度当初予算（案）について
- 第15号議案 平成25年度契約の締結について
- 第16号議案 第13期 新理事・監事の選任について

報告事項

平成25年度新規採用職員状況について

冬期の感染症の罹患状況について

晴楓ホームショートステイの再開について

(3) 会議開催状況

運営会議	毎月奇数水曜日開催
係長会議	毎月第1火曜日開催
安全衛生委員会	毎月第4月曜日開催
防災委員会	毎月奇数水曜日開催
給食委員会	毎月第1水曜日開催

5. 研修について

福栄会キャリアパスに基づき管理職・中間指導職の職層毎に、法人経営研修、経営基礎研修を実施し、人材の育成を図りました。

(1) 管理職研修開催状況

法人管理職に対し法人経営研修として8月25日(土)に決算研修を行ない、10名の職員が参加しました。

(2) 中間指導職研修開催状況

主任・係長職に対し法人経営基礎研修として11月10日(土)・12月8日(土)に経理研修を行ない、34名の職員が参加しました。

(3) 新任職員フォローアップ研修

平成24年度に採用した職員に対し、10月5日(金)に6ヶ月を迎えての新任職員フォローアップ研修を行ない、10名の職員が参加しました。

(4) 資格取得研修

介護福祉士	4名合格
精神保健福祉士	1名合格
介護支援専門員	1名合格
上級救命再講習	1月23日(水)・3月22日(金)

(5) 採用前研修

全体研修	3月25日(月)～27日(水)
現場研修	3月28日(木)～29日(金)

6. 防災計画について

利用者の安全を確保するため、毎月1回の防災避難訓練を実施するとともに、近隣町会との応援協定書について緊急連絡網を見直しました。

7. 施設設備管理の点検強化

法人本部建物を始め、品川区より受託管理している各建物について専門管理業者と共に適正な維持管理に努めました。また、法人本部建物の第二期中期修繕計画(平成22年度から平成26年度)に基づいて設備更新工事を実施しました。

8 . 苦情解決について

利用者サービスの向上・充実を図るため第三者委員による内部検査を実施し、利用者の立場になって業務を点検し、改善を図りました。平成24年度は6月27日、1月16日に委員会を実施し、以下のとおり対応しました。

<平成24年度苦情内容>

施設名	苦情内容	対応
品川区東品川在宅サービスセンター	昼食後本人の嘔吐物に混ざり、義歯（下側）を紛失した可能性があり検索する旨の連絡を受けた。その後どうなったか状況の連絡がなかった。早急に連絡をすべきではないか。	管理者から家族へ事業所からの連絡が滞り、本人及び家族へ不安を持たせてしまったことを謝罪する。経緯説明及び再発防止内容について確認し、了承をいただく。また早急に義歯の作製が必要であり、作製への援助を優先して行なった。
品川区立かがやき園	平成22年度第2回苦情解決・サービス向上委員会から現在までの経過報告をする。	家族、品川区・足立区関係者と話し合いを重ね、平成24年2月19日（日）本人及び家族、法人常務理事、障害者福祉部長、かがやき園施設長で事故についての和解を行った。再発防止策として本ケースをもとに加齢者の介助について検討会を行ない、緊急対応のマニュアル等についても再検討を図った。
品川区立かがやき園（短期入所）	短期入所の予約について毎月1日を予約受付開始日としているが、電話が繋がらず、つながった時には希望の利用希望日が取れない。また、保護者の入院や冠婚葬祭など、本当に困った時の利用ができない。	苦情申し出者に対して短期入所の利用者が増大し、23年度月平均112件に対し、24年度上半期月平均120件で利用予約がすぐにうまってしまう現状を説明する。 今後の予約方法について対応策案として、予約日を1日と15日など2回に分ける、抽選による利用受付を行うなど次年度に向け検討していくことを提案する。

<p>晴楓ホーム</p>	<p>実習生から職員の利用者への介助方法が不適切ではないかと品川区へ連絡があった。 品川区高齢者支援係職員にて事実確認と訪問調査が行われた。</p>	<p>指摘内容において、改善すべきところは真摯に取り組むと回答する。また実習生の疑問点などはその都度説明・回答していくよう努めていくこととし品川区より了解を得ている。</p>
<p>晴楓ホーム (短期入所)</p>	<p>送迎時に車椅子の準備がなく乗車の際負担が大きかった。 また、介護者(苦情申出者)が着席していない状態で車輛が発車してしまった。事故が起こる可能性があるため、安全に利用できるよう配慮していただきたい。</p>	<p>事業所担当者より苦情申出人へ連絡を入れ謝罪を行なった。今後必要物品の漏れがないようにする、安全運行について再度確認を行なった。 意見箱への苦情投函から約1ヶ月程度確認が遅れた。総務課にて意見箱の中を毎日確認し、業務日誌にその有無を記録することとした。</p>

総務課事業報告

1. 基本方針の遵守

地域に根ざした福祉施設として、各施設が邁進できるように連絡・調整を行いました。

2. 重点目標への対応

(1) 総合福祉施設としての適正な事務処理

高齢者、障害者、児童福祉等の総合施設という特色を生かし、人事、給与、会計等について、総合的かつ適切な執行を図りました。また、介護報酬、自立支援費の収入事務処理体制の推進を図りました。

(2) 第二期中期修繕計画に基づく工事の実施

本部施設空調設備及び給排水設備更新工事を、平成24年11月より着工し計画通り実施しました。補助金の申請、資金の借入れが適切に行えるように、品川区・東京都・関係機関と連携を図り綿密な調整を行いました。

3. 事務の執行

(1) 会計等事務処理体制

経理処理を適正に行えているか確認するため、外部の会計監査機関立会のもと中間決算及び内部監査を実施しました。

(2) 福利厚生事業の充実

職員の定期健康診断、成人病予防検査、インフルエンザ予防接種等を実施し、健康管理に努めました。

親睦会活動を通じて職員の交流を行いました。また、職員親睦会クラブとして自転車部等2クラブへの助成を行いました。

4. 地域活動

(1) 地域開放事業

ボランティア等の受入

今年もジブラルタ生命から10月20日(土)に20名以上の方々が参加され、法人本部建物の各所清掃を行っていただきました。

会議室・介護者教室等の貸し出し

NPO法人による講習会や近隣マンション組合、住民説明会の場として、会議室、介護者教室等を貸し出しました。

車両や行事物品の貸し出し

町会行事等への参加のため、住民団体に行事物品（テントや綿飴製造機等）を貸し出したり、関係団体に対し駐車場所の提供をするなど便宜を図りました。

また、要援護者の移送のため法人所有の福祉車両を貸し出しました。

5. 施設管理（営繕）体制

経年劣化した法人建物を適切に効率よく管理するため、建物ごとに保守管理計画を作成し実施しました。工事に職員が立ち会うなど利用者の安全確保と、工事箇所の確認を適切に行いました。

6. 防災対策

利用者の安全を確保するため、消防署と連携のうえ防災対策を実施しました。また居室等の家具の転倒防止、物品の落下防止などを行いました。

（1）防火管理者の養成

講習会等により、甲種防火管理者の資格取得を進めました。また、防災機器の取扱についての講習会を実施し緊急の場合に備えました。

（2）消防避難訓練の実施

毎月1回、昼夜想定 of 消防避難訓練を実施しました。また、マニュアルを確認し、職員に周知徹底を図りました。

（3）救命講習（上級講習、自動体外式除細動器業務従事講習）

上級救命講習会を年1回及び上級救命再講習会を年2回実施しました。なお自動体外式除細動器業務従事講習（AED）も併せて実施しました。

（4）近隣との協力

地元町会と合同で11月25日（日）に総合防災訓練を実施しました。また、品川区職員待機寮入居職員等（東品川わかかさ荘内）と12月21日（土）に情報連絡会を行い、災害時に協力出来るよう依頼しました。

7. 広報

法人の広報活動についてのあり方を幅広く検討し、福栄会についての情報開示をより推し進め、区民及び関係者の理解と協力を得るように働きかけました。法人総合情報誌・ホームページ等での広報活動の充実を図りました。

<福栄会総合情報誌「もみじ」年3回発行 *16ページ・1000部発行>

第65号・夏号 平成24年 8月 5日 発行

第66号・秋冬号 平成24年12月 6日 発行

第67号・春号 平成25年 3月31日 発行

8. 職員について

(1) 職員の配置状況 * ()内は準職員等数、外書き 平成25年4月1日現在

施設名	施設長	事務員	介護支援員	看護師	栄養士	医師	施設管理	OT PT	計	委託		
										運転代行	調理	世話人
晴楓ホーム	1	(2)	(18) 29	(2) 3	1	(2)		1	(24) 34			
東海ホーム	1	1	(2) 5	1	1	(1)			(3) 9			
東品川在宅	1	(1)	(38) 20	(4) 1			(2)	(4) 1	(45) 22	(2)		
大崎在宅		(2) 1	(20) 13	(7)					(29) 14	(1)		
第一しいのき学園	1		(14) 9	(2)		(1)			(17) 10	(1)		
第二しいのき学園		(1) 1	(14) 8						(15) 9			
福栄会障害者相談支援センター			1	1					2			
西大井福祉園 (グループホーム森前を含む)	1	(1) 1	(7) 8	(2)		(1)			(11) 10	(1)		(2)
家庭あんしんセンター	1	(2) 2	(13) 15			(1)			(16) 18			
かがやき園	1	2	(13) 16	1	1	(1)			(14) 21			
かもめ工房			(12) 14			(1)			(13) 14			
品川児童学園	1	(1) 1	(18) 12			(8)			(27) 14	(1)		
五反田ふれあいデイ			(4) 2						(4) 2			
計	8	(10) 9	(173) 152	(17) 7	3	(16)	(2)	(4) 2	(218) 179	(6)	(15)	(2)

産前・産後休暇等3名 品川区地域包括支援センター出向1名

(2) 平成24年度の職員採用及び退職

平成24年度採用	4月1日	介護福祉士	5名
		社会福祉士	3名
		社会福祉主事	2名
		保育士	2名
		看護師	1名
		管理栄養士	1名
平成24年度退職	3月31日	介護福祉士	8名
		社会福祉士	2名
		社会福祉主事	2名
		保育士	4名
		管理栄養士	1名

(3) 平成25年度の職員採用活動

平成25年度新規職員採用については、人事担当職員が積極的に学校訪問した結果、応募の増につながり35名の応募がありました。品川介護福祉専門学校など20学校から20名の職員を採用しました。これらの新規採用者につきましては、5日間の事前研修を行い各施設に配属しました。

平成24年	9月1日(土)	受験者19名	内定者9名
平成24年	10月13日(土)	受験者9名	内定者6名
平成25年	1月18日(金)	受験者7名	内定者7名
平成25年	2月22日(金)	受験者2名	内定者2名

(4) 職員親睦会について

第1班	平成24年	7月19日	日帰り旅行(屋形船)
第2班	平成24年	9月8日~9日	一泊旅行(京都)
第3班	平成24年	10月14日	日帰り旅行(ディズニーランド)
第4班	平成24年	11月17日	日帰り旅行(スカイツリー)
第5班	平成25年	2月1日	日帰り旅行(はとバスツアー)
忘年会	平成24年	12月14日	きゅりあん7階イベントホール
総会	平成25年	3月29日	福栄会本部2階どんぐり広場

9. その他

(1) 行事等

5月13日(日)	福栄会まつり
6月9日(日)	町内祭礼
8月4日(土)	刈崎町会納涼祭
8月28日(火)	物故者法要

- 8月30日(木) 自衛消防審査発表会
- 9月11日(火) 敬老の集い
- 9月30日(日) 品川宿場祭り
- 10月 5日(水) 都監査事務局財政援助団体等監査
- 11月 6日(火) 品川菜園収穫祭
- 11月25日(日) 総合防災訓練(四町会合同)

栄養課事業報告

1. 基本方針の遵守

(1) 利用者のニーズにあった食事の提供

喫食時の観察・声かけや残菜調査及び嗜好調査、給食委員会・利用者給食懇談会での意見交換、検食簿での評価等により利用者のニーズを把握し、献立に反映させることができました。

生活の場に相応しい行事食の提供として、行事由来のイベント食を年4回、日本人の文化や季節を伝える行事食を年17回実施しました。

(2) 地域福祉サービスの実施

大崎在宅サービスセンター担当の地域の方々を対象に介護者のための料理教室を同仮施設で開催しました。

(3) 給食懇談会の実施

利用者、各施設職員、調理スタッフ3者間におけるコミュニケーションの場として東海ホーム利用者及び東品川デイサービス利用者との給食懇談会を各々2回実施しました。

(4) 食品衛生管理体制の充実と食中毒防止

給食施設における大量調理施設衛生管理マニュアルを遵守し毎朝、調理従事者の服装・毛髪・手指のチェックを行い、また、厨房設備・器具機材、配膳車等の清掃・消毒を厳重に行い、年間を通して食中毒予防に努めました。

2. 重点目標への対応

(1) 給食委員会の開催等により、他部署・委託業者との連絡調整を行い、充実した給食サービスの提供に繋がりました。

(2) サイクル献立について内容の見直しをおこないました。

(3) 災害時用備蓄食糧について、入所施設については前年度の5日分に2日分を追加し、合計7日分を確保しました。

(4) 昨年12月からの認知症対応型通所介護事業所東品川在宅サービスセンター「福栄会の家なごみ」の事業開始にあたり、関係スタッフとの打ち合わせにより、食事サービスに必要な物品と環境を整えて順調に食事提供を行うことが出来ました。

3. サービスの実際

(1) 栄養管理

利用者ごとの適正栄養量を基に各施設の栄養給与目標量を定め、施設別の食糧構成に基づいて献立を作成することにより適正な栄養量で食事提供を行うことができました。

看護師・介護支援員・介護職員の協力の下、個別に栄養ケア計画書を作成し

ご家族に説明、同意を経て計画に沿って栄養管理を行いました。

(2) 選択食の実施

昼食の主菜選択を年 19 回実施しました。

昼食の麺選択を年 42 回実施しました。

夕食の主菜(主食)複数選択を年 29 回実施しました。

(3) ミニバイキングの実施

晴楓ホーム、東海ホームでは日曜日の昼食にミニバイキング方式を年 4 回取り入れました。

4 . 各施設との連携

高齢者部門 (晴楓ホーム・東海ホーム・東品川 SC・大崎 SC)

障害者部門 (しいのき学園・西大井福祉園・かがやき園)

(1) 嗜好調査の実施

各施設職員の協力を得て嗜好調査を実施し、結果をもとに献立に反映させることができました。

(2) 残菜調査の実施

毎食ごとに残菜を確認し、朝礼時に報告することでスタッフの共通認識を図りました。

(3) 本部施設空調設備及び給排水設備更新工事に伴う流動的食事提供

工事の進捗状況に応じて、利用者及び職員の喫食場所や配膳方法について綿密に調整を図りながら食事提供を行いました。

(4) 感染症対応で使い捨て食器に切り替え、拡大防止に努めました。

5 . 厨房設備等の整備

(1) 本園厨房の食器洗浄機の経年劣化に伴い更新をおこないました。

(2) 西大井福祉園の適温給食の媒体としてホットワゴンと冷蔵ショーケースを新規購入し、より適温サービスに努めました。

高齢者福祉部事業報告

24年度介護報酬定期改定（第4回）を受けて、改定内容に対応する運営体制に取り組みましたが、特養ホームや在宅サービスセンターの各事業所が改定、感染症等の諸要因により苦戦を強いられた1年でした。

1. 基本方針の遵守

- (1) 利用者の人権と気持を尊重し、利用者に寄り添ったサービスを行うよう努めました。
- (2) 利用者の能力に応じて少しでも自立的な暮らしができるように利用者・家族・職員との協力関係の構築に努めた上で支援しました。
- (3) 各種評価（自己評価・第三者評価）や情報公表を実施・受審した事業所は、評価・公表内容を事業計画に取り入れサービス向上につなげました。
- (4) キャリアパス制度（CPF）を重点的に活用し、人材育成に取り組みました。

2. 重点目標への対応

(1) 目標利用率の達成状況

晴楓ホーム（特別養護老人ホーム・短期入所生活介護）

ホーム事業：95%と目標値97%に届きませんでした。冬季の感染症発生と11月からの設備更新工事の影響によるものでした。

ショート事業：工事により5ヶ月間（11月～3月）休止したため、7ヶ月（4月～10月）稼働ながら利用率114.4%（空床利用含む）と目標値（105%）を達成しました。

（ ）内数値：目標値

ホーム事業（80床）	短期入所生活介護（8床）	合計利用率（88床）
95.0%（97%）	114.4%（105%）	96.1%（97%）

ショート事業は7ヶ月稼働のため、合計利用率は参考値。

在宅サービス事業（通所介護・訪問介護・居宅介護支援）

利用率は大半の事業所で目標値を上回りましたが、報酬改定による収益の落込みが見られました。

東品川在宅サービスセンター（通所介護）	87.8%（85%）
〃（認知症対応型・ぽかぽか）	62.8%
〃（認知症対応型・なごみ） 12～3月稼働	75.5%
大崎在宅サービスセンター（通所介護）	92.5%（85%）

ふれあい	八ツ山保育園	11月に終了	84.0%(80%)
デイホーム	五反田保育園		78.2%(80%)
ヘルパーステーション東品川			467時間(450時間)

東海ホーム（軽費老人ホームA型）

毎月1日付在籍者100%を前年度に引き続き達成しました。

ホーム事業(50名)	100%(99%)
-------------	------------

(2) 介護保険法改正への取り組み

24年度第4回介護保険法定期改正に対応するため、各指定事業所の体制整備・事業運営を進めましたが、厳しい状況での1年でした。

(3) 東品川認知症デイサービスを増設

東品川認知症デイサービス(1日定員12名)の増設(2ユニット目)を行い、12月より認知症対応型デイサービス「なごみ」を開設することができました。増加する認知症高齢者に対応した福栄会版認知症ケアの提供を目指しました。

(4) 大崎在宅サービスセンター新施設移転に向けた準備

仮施設へ移転・稼働中の大崎在宅サービスセンター(北品川1丁目)・在宅介護支援センター(大崎2丁目)は26年4月の新施設開設(大崎駅西口南地区再開発ビル内)に向け、品川区等と連携し、必要な準備を進めました。

(5) インフルエンザ(新型・季節性)等の感染症対策への取り組み

インフルエンザ・ノロウイルス等の感染症対策として、法人設置の安全衛生委員会・感染症対策委員会と連携・協力し取り組みましたが、特に晴楓ホームにおいて、感染性胃腸炎(ノロウイルス等)の発生・拡大がありました。今後に向けて、重度の要介護者に対する予防、発生時の対応への技術向上が強く求められました。

(6) 介護予防事業の実施

在宅サービスセンター活用型の「身近でトレーニング」や「マシンでトレーニング」(区特別給付事業)等、特定高齢者～要支援～軽度要介護者を対象とした介護予防サービスを、東海ホームや東品川わかくさ荘利用者も含めて進めました。

晴楓ホーム（特別養護老人ホーム・介護老人福祉施設）事業報告

1. 事業実績報告

ホーム・ショートステイ（以下、ショートと表記）の合計利用率は96.1%（ホーム95.0%・ショート114.4% ショートは7ヶ月稼働数値）でした。対目標値では、ホームがマイナス2.0%、ショートがプラス9.4%でした。24年度は、介護報酬改定、感染症の発生・拡大、設備工事（11月～5月終了予定）という諸要因が重なり、収入減、経費増により収支は厳しいものとなりました。

24年度月別利用率の推移（定員：ホーム80名・ショート8名）（%）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ホ ー ム	95.0	95.0	93.7	96.5	98.4	98.2	97.2	97.3	95.6
ショートステイ	117.1	120.2	108.8	120.2	115.7	111.3	110.5	休止	休止
合計利用率	97.0	97.3	95.1	98.6	100.0	99.4	98.4		
23年度合計 利用率	98.1	98.7	96.2	94.8	92.0	93.6	92.2	97.2	92.3

	1月	2月	3月	年間利用率
ホ ー ム	91.6	91.3	90.4	95.0
ショートステイ	休止	休止	休止	114.4
合計利用率				96.1
23年度合計 利用率	93.6	97.0	95.3	95.1

ショートは11～3月は工事により休止のため、4月～10月の利用率。

利用率最近3年間の推移（%）

	22年度	23年度	24年度
ホ ー ム	96.9	93.7	95.0
ショートステイ	128.3	109.1	114.4
合計利用率	99.7	95.1	

ショートは11～3月は工事により休止のため、4月～10月の利用率。

2. 重点目標報告

サービス支援領域

(1) 「医療的ケア」の法的基準に沿った体制整備 医療的ケア委員会

介護職による医療的ケア（胃瘻・痰吸引）が介護福祉士法改正により法的に規定され、現任介護職員は「ケア連携研修（伝達研修）」を履修することを条件に、医療的ケア業務を継続して行えることになりました。経過措置として施設内研修（14時間）での履修が認められ、履修した36名の介護職員に「特定行為業務従事者認定証」が各居住都県より、合わせて、施設には東京都より「喀痰吸引等事業者登録通知書」が交付されました。

25年度以降の新採用や異動職員は「痰吸引等実施研修（外部研修・50時間）」の履修が義務付けられました。

(2) 「自己評価」による課題への取り組み サービス向上計画による

前年度実施した職員による「サービスの自己評価（改訂版・第8回）」での4項目の課題を事業計画に取り込み、サービスの質の向上に努めました。

項目	担当
利用者の希望を考慮した外出の機会づくり	サービス向上 検討チーム
利用者に応じたレクリエーション活動の多様化	お楽しみクラブ担当
外部研修への積極的参加を進め、その成果を共有する報告のシステムづくり	主任・リーダー会
リハビリスタッフとの連携のもと、生活リハビリの促進	グループケア・リハビリ担当

(3) 「第三者評価」での改善項目への対応

23年度「第三者評価」では「利用者調査」を実施（参加利用者17名・23年11月実施・評価機関：にほんの福祉ネット）。24年度にて調査での利用者の声に対し順次改善に努めました。

主な声

- ・「美味しそうなものでも歯が悪く食べられない。配慮してほしい。」
- ・「整理整頓がイマイチだ。」
- ・「頭をシャワーでむりやり洗われるのは気になる。」
- ・「もう少し優しい言葉かけをして欲しい。」

(4) グループケアの再編 ホームとショートとの一体化

ショートステイを4・5階2フロアから4階1フロアに集中再編し、4階「さくら」グループはホームとショートにより編成され、協働でグループケアを進めました。

<グループ表> ()内はグループカラー名

	グループ名	階	居室	利用者人数
	ひまわり(オレンジ)	4階	401～406室	15名
	さくら(ピンク) ショートと合同グループ		407～421室 (下記居室除く)	16名 (ショート8名含む)
	ゆり(グリーン)		412～415室	12名
ホーム35名・ショートステイ8名				
	たんぽぽ(イエロー)	5階	501～506室	15名
	あじさい(ブルー)		507～512、 517室	16名
	おれんじ(オレンジ)		513～516、 518室	14名
ホーム45名				

(5) 感染症の防止対策への取り組み 感染対策委員会

この冬はノロウイルス等による感染性胃腸炎が全国的に大流行しましたが、当ホームにおいても12～1月にかけて発生・拡大し、利用者25名、職員6名が罹患しました。インフルエンザ(A型)は3月に入り利用者9名、職員1名が罹患しました。

この間、品川区保健所による数次にわたる指導のもと、職員一同力を合わせ拡大防止に努め、終息に至りました。

感染対策委員会では、今回の経験を糧に、新年度においても発生・拡大を防ぐ実践的技術の徹底に努めます。

(6) 身体拘束廃止に向けた取り組み 身体拘束廃止委員会

センサーマット、立位時にブレーキが掛かる車椅子等の活用など身体拘束防止に努めました。

(7) 事故防止への対応 事故発生防止委員会

事故防止対策：ヒヤリハット報告の活用の他、転倒防止用のセンサーマット（床用・ベッド用・車椅子用）等の活用を行いました。

事故発生時の対応：緊急対応訓練等により対応技術の向上を図りました。

事故防止研修：年 2 回実施しました（規定による）。

感染症を除いた事故はホーム 4 件(ショート 0 件)。3 件が骨折事故，1 件が転倒でした。

(8) 居住性・作業性の向上に向けて 主な計画

前年度「東京都実地検査」（12月）の指摘を受け、静養室等必要な整備を実施しました。

本部建物空調・給排水設備更新工事は11月～4月にかけて行われ、平行して床張替（居室・廊下）、ロビー照明器具交換、廊下各部の補修工事（塗装・研磨等）にも着手、各階とも無事終了しました。

職員室前倉庫スペースの全面改修により、物品類の収納が効率的に行なわれました。

(9) 家族との連携・協力

「晴楓家族友の会」では交流会（1階ロビー）、物故者慰霊法要への供花、福栄会まつりバザー参加、介護用品寄付、会報発行等の幅広い活動を行ないました。

家族懇談会は3月24日（日曜日）に開催し、25家族（27名）が参加されました。

(10) ボランティア「晴楓メイト」の受け入れ

「晴楓メイト」として毎月延80名近い方々に、車椅子清掃・傾聴・クラブ手伝い・理美容・繕い物・行事手伝い等の幅広い活動をお願いしました。

運営管理領域

(1) キャリアパス（CPF）制度の活用により、人材育成を計画的に進める

職員処遇の改善を行いながら、介護従事者の人材育成のために、研修の充実など法人キャリアパス（CPF）の一層の活用を図りました。

(2) 業務効率化へのさらなる取り組み

介護職員の業務負担を軽減するため、介護機器（移乗用固定型リフト・介助型車椅子等）等を活用し、腰痛防止や労力効率化に努めました。

ショートステイ（併設型短期入所生活介護）事業領域

（１）ショート事業は工事のため７ヶ月稼働

本部建物設備工事により１１～３月の５ヶ月間事業を休止したため、４月～１０月７ヶ月の稼働でした。

（２）ショートフロアを４階１フロアに集中再編

ショート・スタッフが４階「さくら」グループメンバーとなり、ホームスタッフとの協働体制によりショート事業を進めました。

（３）「東京都実地検査」指摘項目へ対応

２３年度「東京都実地検査」（１２月）の指摘を受けた諸項目（ケアプラン等）の改善に取り組みました。

機能回復訓練事業領域

データは機能回復訓練事業報告参照

（１）個別機能訓練実施計画書に基づく運動機能の維持・向上

介護・看護チームと連携し利用者身体機能の維持・向上に努めました。

（２）介護職との連携を強化

介護職のリハビリ担当と連携し、トランス（移乗）等の介護技術や腰痛予防に対してのリハビリテーション研修を随時行いました。

東海ホーム（軽費老人ホームA型）事業報告

1. 基本サービス方針に基づいた事業の実施

(1) 介護予防事業の推進

利用者の方々が、健康で活力ある楽しい日々を過ごされるよう、ホームでは福栄会の総合施設としての機能も活用し、介護予防を推進しました。

東品川在宅サービスセンターで実施している「マシンでトレーニング」に介護認定外のお元気な利用者2名が参加しました。介護認定対象の「身近でリハビリ」には5名が参加しました。物忘れが気になる方や運動不足が気になる方を対象に東品川在宅介護支援センター「ちえのわ教室」には3名の方が参加しました。

当法人の理学療法士による「介護予防が何故必要?」の講座では、介護予防の目的・必要性の他、具体的な運動も行い利用者が生活の中に身近に取りこめるようにしました。

外部講師による介護予防事業は、品川区保健センター保健師を講師に招き口腔ケア「口腔機能向上の必要性」の講座を開催し、咀嚼力・唾液の分泌の重要性を新たに認識しました。

通院など自力での外出に不安をお持ちの方には、自費での介護サービスを有効的に利用し、また、職員や家族が協力することで、外出介助を円滑に進めることが出来ました。

また、要支援・要介護認定者の増加に対応して、職員の介助（服薬管理、入浴介助等）を強化し、可能な限りホームでの生活が維持できるように援助しました。

(2) 個別サービスの充実と質の高いサービスの提供

利用者の方々は、趣味、嗜好など個々が違った特性を持っています。ホームでは出来るだけその特性を考慮しながら、様々な行事等を実施しました。

個別面談を実施し、1年間の目標や計画等を話し合い、個別サービス計画書を作成しました。計画書に個人目標を掲げ、居室内に掲示し、利用者が日々、確認できるようにしました。

昨年度は東日本大震災の影響で中止していたお出かけ行事を再開しました。銀座での食事会と横浜めぐりの外出を計画実施しました。恒例のお花見、紅葉狩りドライブも実施いたしました。館内での活動もボランティア講師の協力の下、大正琴・三味線琴の演奏会・折り紙・機織・ビデオ鑑賞会・出前名画座・カラオケ等を行い、多くの方が参加できました。

11月～2月の期間は、感染症、大規模修繕工事のため一部行事を中止させていただきました。

男性の入浴日を月・火・水・金から月・水・金・土に変更し、入浴の機会を2日に1回確保できるようにしました。

(3) 介護と看護の密接な連携

利用者の日々の心身の状態の観察を深めミーティング及びケース会議で介護・医療両面での検討を重ね、その結果をサービス提供に生かすことに努めました。新規入所者や要介助者を対象に、自立生活維持、安全への配慮等を一覧にした支援統一表を作成し、きめ細かいサービス提供に努めました。また、介護・看護技術の向上のため、職員全体の勉強会を行いました。

介護職員、看護職員の連携の下、下記の活動を実施しました。

日々の健康管理の中で、体調の優れない利用者には早期に受診を勧め、健康保持に努めました。また、身体的ケアのみならず、精神的ケアを含めた支援を行いました。

個々の利用者への適正な服薬指導、居室清掃の支援を行い、日常生活面の清潔保持に努めました。

年2回の健康診断を実施。[血液検査・検尿・胸部レントゲン(1回目のみ)・身長・体重測定・心電図]しました。

感染症対策として、「感染症・食中毒の予防・蔓延防止のための指針」に基づき、利用者の安全確保を図りました。ホーム内の環境の清潔を保つため、整理整頓、ボランティアの協力による手すり・椅子拭きを含めたこまめな清掃を行いました。利用者には普段からの手洗い・うがい、受診時のマスク装着等と呼びかけて協力を得ました。感染症対策研修を実施しました。

季節性インフルエンザの混合ワクチンの予防接種を11月に利用者・職員を対象に実施しました。

平成24年度は上記取組みにも拘わらず、インフルエンザには3名が罹患され、感染性胃腸炎(疑いも含む)には、利用者4名(職員1名)が罹患されました。介護事故防止等に取り組むにあたって、ホームの「事故発生防止のための指針」に基づき、毎月、事故防止検討委員会を開催し事件事例の分析を行い事故発生防止に努めました。事故発生の防止のための研修も実施しました。

(4) 地震等災害への自衛防災体制の徹底

消防計画に基づき、毎月1回防災訓練を実施し、避難訓練、自衛消防隊による通報訓練・初期消火などの連携に努めました。

朝礼や利用者集会を通し外出時の届出を確実に行うよう声がけし、災害発生時の安否確認に備えました。

利用者には外出時、東海ホームの住所、連絡先の入った緊急連絡カードの携帯を

お願いしました。

東海ホーム震災行動マニュアルの見直しを継続して行っています。

(5) 家族との協力体制

9月・3月に家族懇談会を開催し、利用者の生活状況や事業計画の進捗状況等について説明しました。

利用者・家族で結成する親睦会への支援として、ホームが事務局機能を担い、親睦会役員会・定例総会への協力を行いました。親睦会主催の行事は感染症の流行のため開催を見送りました。

(6) 実習生等の受け入れ

福祉専門学校の実習生徒の受け入れや、医科・福祉系大学の研修生・ボランティア体験学習生・近隣の中学校の生徒ならびに保育園児の訪問受け入れ等、利用者の生活圏の中で交流促進を図りました。

(7) 福祉サービス第三者評価利用者調査の受審とその結果報告

今年度は、外部の評価機関による「利用者に対する調査」(評価機関:株式会社 福祉規格総合研究所)を実施しました。調査は、全利用者を対象に聞き取りで行われました。

利用者の総合的な評価では、東海ホームでの生活に「大変満足」11名、「満足」28名、「どちらともいえない」4名、「不満」1名の結果でした。食事や入浴の評価も高い評価を頂きました。

職員の対応に関しては、約70%の利用者に高い評価をいただきました。一方で「職員がもっと増えるとよい」、「忙しそう」等の意見もあり、利用者とはゆったりと話す機会が減少していることを調査結果から実感しました。そのために事務室の相談スペースを広く取り、有効的な利用を開始しました。

(8) 施設整備・管理・営繕

「岩の湯」「滝の湯」の浴室床が経年劣化により滑り止め効果がなくなったため、滑り止め薬剤を使用し滑り止め防止としました。

ホーム内の電気はLEDに替え、無駄なスイッチは切り、乾燥機による乾燥は極力天日干しとし、利用者にも協力頂き、節電に取り組みました。

本部施設の空調設備及び給排水設備更新工事を行いました。東海ホームの共有部、利用者居室の同更新工事も行いました。

共有部の床の張り替え工事を行いました。

在宅サービス課事業報告

1. 基本方針の遵守

在宅介護支援センター・在宅サービスセンター・訪問介護事業共通

基本方針「その方の能力に応じた在宅生活を送れるようにサービスの提供を行なう」に基づき、平成24年度も各事業所が利用者中心の具体的なサービス提供に努めました。

大崎駅西口南地区の再開発事業に伴い、仮施設へ移転した大崎在宅サービスセンター・大崎在宅介護支援センターは、移転先のニーズをふまえながら、利用率の安定化・向上に務め、収支のバランスの維持に努めました。

事故防止に努め、事故発生時は「事故対応マニュアル」に基づき迅速な対応を行いました。問題が発生した場合は管理者が窓口となり、関係機関と連携を図り、円満な解決に向けて取り組みました。

感染症対策として、法人の安全衛生委員会や感染症対策委員会と連携・協力し、予防に取り組みました。センター内の環境を清潔に保つため、整理整頓や手すり・テーブル・椅子等の消毒と清掃をこまめに実施し、利用者・職員の手洗い・うがい等を励行しました。

東日本大震災の影響による電力供給不足に鑑み、24年度も引き続き、ご利用者・ご家族のご協力を得て、節電対策などを積極的に取り組みました。

平成24年4月からの介護報酬改定を受け、積極的な情報収集に努め、各事業所の体制整備を行いました。

(1) 在宅介護支援センター

地域包括支援業務、居宅支援事業等、業務の予防から介護まで包括的・継続的な支援の実施に努め、在宅介護支援センター業務が円滑に行えるようにしました。また、ニーズに対して速やかな対応を行なうためにも定数管理を確実にこなせる職員体制を整え、地域に根ざした「広義な意味での生活支援」・ネットワーク作り・介護保険下における各業務を行いました。

また、介護支援専門員の実務に関わる業務内容の見直しを行うなど、適正な介護保険給付管理に努めました。

(2) 在宅サービスセンター

各事業所において目標利用率を掲げ、目標達成に向けて努力しました。地域ニーズの高いリハビリへの対策として、今年度も区市区町村特別給付事業（介護保険外）「身近でリハビリ」を実施しました。

東品川デイサービス（認知症対応型通所介護「なごみ」）（定員12名）

を平成24年12月に開所しました。

今日までの認知症介護の経験を生かし、より専門的な支援を提供できる様に努めました。又、開設にあたり、品川区をはじめ、近隣の在宅介護支援事業所との綿密な情報交換および情報共有を行いました。

これにより、品川地区の在宅通所介護サービスの拡充がさらに図られることになり、品川区とも協議のうえ、品川区立八ツ山保育園ふれあいデイホームは平成24年11月末日をもって事業を終了しました。「認知症の方が安心して暮らせる町づくり」事業として、ご本人が少しでも長く在宅生活を続けていけるサポート活動を支援センターと協力の下行いました。

品川区立五反田保育園ふれあいデイホームは、従来のサービスを視点においた保育園児との交流を継続し、利用率の向上とさらなるサービスの充実に努めました。

予防通所介護を利用される方に重点を置き、保険対象外サービスにおいても提供サービスの弾力化を図り、多様化するニーズに応えました。

(3) 品川区ヘルパーステーション東品川

24年度のサービス提供時間は約467時間(月平均)となり、目標時間450時間を維持する事が出来ました。

法人内の入居施設の方々へ在宅利用者と同様に適正なサービス提供を行いました。

(4) 品川区立高齢者住宅東品川わかくさ荘

入居者の方々が「安心して生活できる」ように、品川区や関係機関と連携・協力の下、住環境等の整備に努めました。また品川区いきいき事業課及び法人本部と協力し適正な建物の維持管理に努めました。

(5) 地域との連携

民生委員をはじめ各サービス提供事業者、区関係諸機関との連携を図り、緊急時も含めた具体的な役割分担を通し、協力関係を深めました。また、地域開放事業として、第20回福栄会まつりを開催し、地域住民の方々に建物・設備等を開放し、行事活動を通じた交流を図りました。

(6) 研修・内部勉強会

計画的に職員の知識啓発を図り、サービス内容の向上に努めました。

別紙「在宅サービス課職員研修報告」参照。

東品川・大崎在宅介護支援センター事業報告

1. 基本方針の遵守

(1) 介護支援専門員の適正配置

介護保険制度の見直しにより、予防給付と介護給付に担当が分かれ、利用者の状態に応じた適切なマネジメントを実施できるように体制を整備しました。介護給付では介護支援専門員が担当する件数は1人あたり35件程度(事業所管理者は25件程度)、予防給付では1人あたり50~60件程度となるよう適正配置に努めました。

(2) 包括的な支援の実施

予防給付から介護給付へ移行した場合なども、近隣事業所や関係機関などと連携し支援しました。また、必要に応じて同じ事業所内でも、継続的に支援が出来る体制をとりました。

(3) 地域に根ざした支援の実施

高齢者が住みなれた地域で生活が継続出来るように、関係機関などと連携し支援しました。

(4) 業務の再確認

介護支援専門員業務の再確認のため、東京都保健福祉局の様式を用い、適正な介護給付に努められるよう、年に2回確認の作業を行いました。

2. 重点目標への対応

(1) 地域ネットワーク作りへの取り組み

民生委員の方々や区関係機関との協力の下、認知症サポーターを養成するための地域学習会、認知症出前講座を開催しました。24年度は講座を受講され、認知症サポーターになられた方や実際に介護をされているご家族など向けに勉強会を開催し、より良い地域づくりへの基盤を構築しました。また、民生委員懇談会、ふれあいサポート活動連合会、シルバーセンターのイベント等に参加し、支援センター事業のPRと地域のネットワーク作りに努めました。

東品川在宅介護支援センター・東品川第二在宅介護支援センターとの協同で、認知症予防のための保険外事業「ちえのわ教室」・「ちえのわ南教室」を開催し、高齢者やボランティアの活動の場として簡単な読み書きや計算、運動などのプログラムを提供しました。

大崎在宅介護支援センターでは、大崎地区民生委員・品川区高齢福祉課と連携し、介護保険に関わる勉強会・意見交換会を実施しました。又、

地域の方向けに介護保険サービス等の懇談会を実施しました。

(2) 24時間連絡体制の確立

24時間の連絡体制を確保し、必要に応じ利用者からの相談を受付けました。休日の電話相談等は携帯電話を活用し、支援センター職員が交代で対応するなど、連絡や緊急対応、サービス調整などに対応しました。

(3) 介護保険制度改正への対応

平成24年4月からの介護保険制度改正により新たに創設された「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」について、モデル事業地区として培ってきた実績を元に品川区主催の検討委員会に参加し、積極的に意見交換をおこなってまいりました。

(4) 東品川デイサービス(認知症対応型通所介護「なごみ」)開所

平成24年12月に開所した新事業所立ち上げについて、在宅介護支援センターも事業開設検討会などに参加し、通所介護事業所との綿密な情報交換および情報共有に努めました。

(5) 「東品川わかくさ荘」(品川区立高齢者住宅/50室)・「東品川身体障害者住宅」(2室)居住者への援助(東品川)

品川区の管理委託を受けて高齢者住宅居住者に対し、防災訓練や緊急対応も含め必要な生活支援を行いました。

(6) 大崎地区再開発に伴う仮移転期間中の相談体制・事業所間の連携

大崎在宅介護支援センターの仮移転期間中は、各関係機関との情報交換を綿密に行い、利用者・家族・地域住民の皆様からの相談に対して円滑な支援を行いました。定期的な移転に関する会議に参加しました。

(7) 実習生の受け入れ

福祉の人材育成協力機関として、品川介護福祉専門学校、昭和大学付属看護専門学校、東京保健医療大学、都立城南能力開発センターより実習生を受け入れました。東品川在宅介護支援センターでは合計20名の実習生を受け入れました。

大崎在宅介護支援センターでは品川介護福祉専門学校、東京保健医療大学、昭和大学付属看護専門学校、社会福祉協議会社会福祉士実習などから合計16名の実習生を受け入れました。

3. 在宅介護支援センター利用状況

別紙「在宅介護支援センター利用状況」参照

在宅サービスセンター事業報告

1. 基本方針の遵守

24年度は各事業所ともに、介護予防通所介護サービスを利用される方にも重点を置いたサービスを提供しました。保険対象外サービス等についても弾力的に対応しました。

サービスの種類・事業所名	規模区分	定員（1日）
(通所介護・介護予防通所介護) 東品川在宅サービスセンター	大規模型	40名
(認知症対応型通所介護・介護予防認知症対応型通所介護) 東品川在宅サービスセンター（ぽかぽか） 東品川在宅サービスセンター（なごみ）	/	12名 12名
(通所介護・介護予防通所介護) 品川区立大崎在宅サービスセンター	通常規模型	35名
(通所介護・介護予防通所介護) 品川区立八ツ山保育園ふれあいデイホーム	小規模型	10名
(通所介護・介護予防通所介護) 品川区立五反田保育園ふれあいデイホーム	小規模型	10名

大規模型

(1) デイサービス事業

<東品川在宅サービスセンター・品川区立大崎在宅サービスセンター>

個々の利用者のケアプラン（介護サービス計画）に基づき、質の高いサービス提供を心がけました。また、継続した在宅生活を送ることに視点を置き、利用者・家族の生活の改善につながるようなサービスに取り組みました。

各在宅介護支援センターとも連携を取り、速やかなサービス提供が行えるよう努めました。やむをえず利用を待機していただく場合には、少しでも代替サービスが利用いただけるように環境を整備しました。

<東品川在宅サービスセンター 認知症対応型通所介護（ぽかぽか）>

小人数グループ制を土台とした認知症プログラムを提供し、施設間同士の交流会・園児との交流会など人と触れ合う機会を作り、楽しく、安心して利用できるよう環境作りに努めました。

<東品川在宅サービスセンター 認知症対応型通所介護（なごみ）>

高齢者住宅東品川わかくさ荘1階（「バリアフリー住まい館」閉館跡地）で新たに認知症対応型通所介護事業所として「福栄会の家 なごみ」

を平成24年12月に開設しました。

品川区立八ツ山保育園ふれあいデイホームから移行された方を含め、約20名の方が登録され、1日平均9名の方に利用して頂きました。

<品川区立八ツ山・五反田保育園ふれあいデイホーム>

保育園児との交流を特色とした活動、サービス提供を実施しました。

(2) 介護予防事業(保険対象外) 定員 - 各10名程度/週1回

<マシンでトレーニング(東品川)・身近でトレーニング(大崎)>

介護予防事業として、福栄会リハビリテーションセンターで専用の運動機器を使い、運動する習慣や健康づくりなど個々に合った活動を提供しました。また、特定高齢者だけでなく、介護保険制度対象外となる利用者も積極的に受け入れました。

(3) 区市町村特別給付事業「身近でリハビリ」(東品川)

要支援・軽介護の利用者が希望するリハビリサービスを円滑に利用できるように、エリア別に週2回実施しました。

(4) 介護者教室(年6回開催)

身近なテーマによりその内容の充実を図りました。また、開催にあたっては、法人や品川区の協力を得、町会掲示板を活用することにより、多くの参加をいただきました。

関係各機関と協力し、介護に関する専門的な情報を提供し、参加者が自由に意見交換できる環境作りに努めました。

東品川・大崎在宅介護支援センター、大崎在宅サービスセンターと合同で、認知症家族懇談会を年3回実施しました。認知症の方を介護するご家族の交流の場として定着し、年々参加者も増えるなど実りのある懇談会が実施できました。

2. 重点目標への対応

(1) 家族や支援センター等との連携

在宅支援サービスを良質なものとするため、家族や在宅介護支援センター等との連携に努め、積極的に家族支援としての働きかけと相互のつながりが深まるように努めました。

実施内容等	実施事業所
戸別訪問：年1回(介護計画作成等)	全事業所
家族懇談会：年1回(介護報酬改定説明等)	4月14日 東品川 SC 4月28日 大崎 SC
利用者集会：年1回(連絡事項等)	4月 東品川・大崎 SC

(2) 法人主催の地域交流事業へ積極的に参加

サービスセンター利用者の多くが晴楓ホーム短期入所事業を利用して
いる現状を踏まえ、短期入所事業担当者と協力して、デイサービスで
の余暇活動や行事などに参加しやすい環境づくりに努めました。

高齢者と園児のふれあいを通して「高齢者の自立支援や生きがいづく
り」等に貢献してきたふれあいデイホーム事業の特色と成果をふまえ、
今年度も保育園児との交流を積極的に行いました。

区内の通所介護事業所との相互連絡を綿密に行い、協力関係に努めま
した。

(3) ボランティア参加の促進

ボランティア懇談会を開催し、ボランティアの皆さんの声を聞く事
により、活動打ち合わせ・プログラムメニューの工夫・短時間でも参
加しやすい環境整備を行うことができました。

(4) マニュアルの整備とサービスの標準化

サービスマニュアルの標準化に向けた取り組みと現場で使いやすい
実務的な内容の整備を進めました。

(5) 入浴サービス

月曜日から土曜日までの入浴サービスを実施しました。利用者個々
の状態に配慮し、介助浴・機械浴の提供を行いました。

(6) 給食サービス

個々の利用者に合わせた食事を検討し、法人栄養課の協力の下、充
実した給食サービスを提供しました。提供にあたっては、食品衛生管
理体制を徹底し、食中毒防止に努めました。

(7) 訪問給食サービス

介護予防事業としての訪問給食サービスを実施しました。延べ利用
数は、東品川在宅サービスセンター1,590件、大崎在宅サービス
センター261件となりました。また、訪問時には安否確認等を実施
するなど細部にわたり配慮に努めました。

(8) 機能回復訓練事業 福栄会リハビリセンター事業報告参照

介護予防通所介護における運動機能向上メニューに重点を置き、区
内老人保健施設等と綿密な連携を図り、利用者の自立支援と日常生活
の充実に資するような機能訓練を実施しました。

(9) 介護予防事業「身近でトレーニング」

大崎シルバーセンターを会場とし、毎週木曜日(第3木曜日以外)月
3回実施しました。新規利用やリピーターからの希望が多く、登録1
2名、平均10名の実人数で実施しました。平成24年度は延べ34

1名の方が利用されました。

(10) 送迎サービス

安全で確実な運行に重点に置き、周辺の交通事情や利用者の状況を常に把握しながら適切な運行、サービスの提供時間に努めました。現在利用されている利用者、今後利用される予定の方の状況と必要な職員配置なども検証し、適切な送迎サービスを実施しました。

(11) 介護者教室 年6回開催

身近なテーマを含めた内容の充実を図ると共に、法人や区、町内会の掲示板の利用やお知らせ文の配布など情報提供の仕方を工夫して多くの方の参加を呼びかけました。関係各機関と協力し、介護に関する専門的な情報を提供しました。開催にあたっては、参加者が自由に意見交換できる環境作りを行いました。東品川・大崎支援センター、東品川・大崎在宅サービスセンターと合同で、認知症家族懇談会を年3回実施。認知症の方を介護するご家族の交流の場を提供しました。参加者も段々と増え、実りのある懇談会が実施出来ました。

(12) ふれあいデイホーム事業所見学会

品川区立八ツ山保育園ふれあいデイホーム、五反田保育園ふれあいデイホームでは、家族や介護者からの事業所視察を積極的に受け入れました。各事業所の作品展等開催に合わせて、家族や介護者はもとより、広く地域の方々にご見学をいただきました。

【資料】

在宅課年間行事[別紙]

年間利用状況[別紙]

過去の各事業の推移[別紙]

防災訓練実施状況[別紙]

24年度ヒヤリハット・事故状況[別紙]

クラブ活動実施報告[別紙]

品川区ヘルパーステーション東品川事業報告

1. 基本方針の遵守

利用者の「生活支援」を中心とした訪問介護事業を継続・展開しました。利用者への生活支援はもとより、家族の生活を含めた視点でのサービスを提供し、対応が難しい利用者や介護予防・障害者自立支援を含めた在宅扱いの施設（高齢者住宅や軽費老人ホーム等）利用者等へのサービスも実施しました。

2. 重点目標への対応

（1）地域事業者と連携したサービス提供

福栄会の居宅介護支援事業や他民間事業者、通所介護事業、短期入所事業と一致協力したサービスを提供しました。

高齢者の相談から、派遣、通所、短期入所までの諸事業とケース会議等を行い、総合的に連携した生活支援を行いました。また定期的に内部研修を開きサービス提供の質の向上に努めました。

（2）家族（保護者）とのかかわり

在宅生活支援を良質なものとするため、支援センターと協力し家族との情報交換を密にし、利用者一人ひとりに合ったきめ細かいサービスを提供するよう努めました。

（3）職員の質の向上

定期的な職員会議や研修を通して、職員の質の向上と安定をはかるよう努めました。また、制度改正の勉強会も行い周知を徹底するよう努めました。

3. サービス提供（支援）体制の整備

24年度の制度改正に伴い、サービス提供責任者を2名に増員するなど事業所の体制整備に努めました。

管理者・・・1名

サービス提供責任者・・・2名（実利用者40人に対して1名）

別紙「訪問介護利用状況及び過去の推移」参照

機能訓練事業報告

(在宅サービスセンター / 東品川・大崎共通)

1. 基本方針の遵守

理学療法士・柔道整復師・介護職・看護師など多職種が個別機能訓練計画書に基づき、計画的にリハビリテーションを実施しました。

2. 重点目標への対応

(1) 個別機能計画の提供

利用者・家族が生活上抱える問題点や、リハビリに何を望んでいるか等の話し合いを基に、実施計画を立てました。今年度も相談しながらリハビリ目標を設定するように努めました。

(2) 単独サービスの活用・柔軟な受け入れ体制の確立

市町村特別給付事業「身近でリハビリ」の継続利用の確立や卒後対策として、継続的にリハビリが実施出来る様に、単独リハビリを設定し、ご利用のご相談など、積極的に受け入れをはかりました。

(3) 他施設との連携

他の近隣医療機関、区内老人保健施設を退園者された利用者に継続したりハビリが実施できるよう連携を図りました。

(4) 障害者施設へのサービス提供

障害者福祉部の各施設(しいのき学園・西大井福祉園・かがやき園)の利用者を対象として、理学療法士のリハビリサービスを実施しました。機能評価や介助方法、生活の中でのリハビリなど総合的な検討を行いました。

3. 業務の充実

(1) リハビリ体制作り(在宅サービスセンター共通)

リハビリ担当業務の共同体制作りのため、各事業所のリハビリ職員同士で会議を実施し、必要な情報交換や連携の強化に努めました。

(2) 介護予防事業の実施

介護予防事業を2在宅サービスセンターで今年度も実施しました。近隣住民の特定高齢者・体力低下のある高齢者・東海ホームの方々と体を動かし、地域の方と交流を図りました。

東品川 SC:『マシンでトレーニング』(1日10名)

大崎 SC:『身近でトレーニング』(1日10名)

別紙「機能訓練実施状況」参照

東品川わかくさ荘事業報告

1. 基本方針の遵守

東品川在宅介護支援センターによる個別相談、退院直後の利用者（虚弱高齢者）への各サービスプラン（給食、入浴等）の継続的な支援を行ないました。また、障害者の入居者に障害者関係部署との相談を行うなど、総合的事業を持つ福栄会としての連携及び支援内容の質の向上に努めました。

2. 重点目標への対応

(1) 法人施設、区所管課との連携

緊急時の対応として緊急通報システム（生活リズムシステム）及び電話等による連絡を受けて迅速かつ適切な対応をしました。

常日頃声掛け等による状態確認を行い、利用者が居室内で孤立しないように支援を行ないました。特に日常的な生活動作能力上問題ある方は随時訪問・電話確認等の状況確認を行いました。

東品川わかくさ荘の建物管理として、建物機械設備は施設管理職員が適切に維持管理し、適正な管理を行うため専門業者による定期点検を行ないました。

(2) 防災体制への取り組み

「迅速な避難」を目的に入居者、職員参加による防災訓練を4回実施しました。

第1回 平成24年 5月31日（木）：日中想定

第2回 平成24年 9月27日（木）：夜間想定

第3回 平成24年11月25日（日）：夜間想定

第4回 平成25年 2月28日（木）：夜間想定

(3) 利用者の意見・要望の収集

日頃の挨拶・会話や、相談窓口等を通し利用者から意見・要望の収集を行う他に、意見箱を設置しました。また、対応が困難な事例は品川区所管課と報告・相談を行いました。苦情については24年度は0件でした。

また、平成24年5月29日（火）には、品川区所管課との情報連絡会、平成24年12月22日（土）には東品川わかくさ荘職員待機寮入居職員及び法人住宅入居職員とともに、災害時の体制等の共通認識のため、会議を開催いたしました。

(4) 情報公開、個人情報の保護

社会福祉法人福栄会で定める「情報公開規程」「個人情報の保護に関する規程」に基づき、個人情報の保護に努めました。

(5) 安全管理への取り組み

事故防止対策として、建物保全是、ワーデン担当職員、宿直者等の朝夕の巡回を通し、設備および入居者の安全確認を行い事故防止に努めました。

非常時・緊急時を含む本部と運営施設の連絡体制は、設備・人的の両面において綿密な体制をとり、非常時・緊急時において一体となった対応を行ないました。

障害者福祉部事業報告

1. 基本方針の遵守

(1) 利用者本位のサービス

利用者の権利擁護を推し進め、利用者が持つ障害を踏まえ一人ひとりの個性および意思・選択を尊重した上で、それぞれの利用者のライフステージに応じた支援を行いました。

心身の健康を維持し、働くことや様々な活動を通して幅広い生活が送れるように支援しました。

自立に向けた支援として地域生活支援および就労支援を関係機関との連携と協力の上で実施しました。

(2) 家族との連携、関係機関との連携

利用者が生活する家族を含め、区をはじめとした各関係機関との連携を図り、相談および諸サービスの利用などに結びつけ、利用者および家族の方が安心して地域生活を送れるように支援しました。

特に親の高齢化などによる介護力低下による家族状況に対応できる支援体制を関係機関と連携し対応しました。

(3) 地域等との連携

地域に開かれた施設を目指し地域との交流を深め、利用者の社会参加を促進し地域で生活する一員として生活が送れるように支援しました。

2. 重点目標への対応

(1) 相談支援体制の構築とケアマネジメント体制を整備

知的障害者の利用者の個別相談および支援を的確に行うとともに、福栄会相談支援センターの設置準備を進め、特定相談支援事業者の指定を受けることが出来ました。

また、支援を行う上でのケアマネジメントサイクルの構築、ケアマネジメントの観点からの個別支援計画作成、ケースカンファレンスの技術習得を目的にケアマネジメント委員会を引き続き実施しました。主としてフェイスシート・アセスメントシートの書式を選定し、部内で共通するケースマネジメントの環境を整えました。

(2) リスクマネジメント体制の見直し

事故発生防止委員会を引き続き行い事故防止に備え、事故発生防止のため、マニュアルおよび設備等において安全配慮のための整備を行いました。

特に感染症予防を目的とした研修会の実施を行い、ノロウイルス、およびインフルエンザによる集団感染に対応しました。

(3) 加齢障害者等に対する取り組みの継続

平成22年度より取り組みを進めている加齢障害者等に対する個別支援プログラムとして機能低下予防、健康維持を図りました。

(4) シンフォニーの販売拡大による収入の増

福栄会自主製品製造販売グループのシンフォニーによる自主製品全般の品質管理向上を引き続いて目指しました。また、販売網の拡大を図り収入増を図りました。(かもめ工房事業報告自主製品イベント販売参照)

3. サービス支援体制

(1) 相互の協力体制

障害者の施設および事業は、その運営および支援面においてそれぞれのメリットを活かし、協力体制をもって相互に関連した活動を展開しました。

(2) 施設内容 (障害者福祉施設全体の目標値95%)

事業・施設名	障害者自立支援法に基づく事業、施設	定員	利用率 (%)
第一しいのき学園	生活介護	40	111.9
第二しいのき学園	就労継続支援B型	60	109.3
区立西大井福祉園 (多機能型)	生活介護	25	115.9
	就労継続支援B型	15	107.3
区立西大井つばさの家	共同生活援助	7	96.2
グループホーム森前	共同生活援助	6	75.2
区立かがやき園	施設入所支援	30	95.5
	生活介護	30	104.4
	短期入所	3	118.6
かもめ第一工房	就労継続支援B型	20	107.6
かもめ第二工房	就労継続支援B型	20	92.4
かもめ第三工房	就労継続支援B型	20	104.0
精神障害者地域生活支援センター	相談支援事業・地域活動支援センター		

利用率は、実開園日数に対する利用率です。

第一しいのき学園事業報告

1. 重点目標への対応

(1) ケアマネジメントの視点に立った個別支援計画の充実

利用者および家族・支援者の意向、加齢等の状況に応じてニーズに適確に対応する活動や作業等のサービスの提供を組み立て、個別支援計画に反映するようにしました。

(2) 支援サービスの充実

Aグループ（最重度～重度、1・2班）

最重度・重度障害の利用者を中心にレクリエーション・余暇などの日中活動や運動する機会、入浴サービスの提供など、健康維持のための活動の充実を重点的に行い、「その人らしい活動」ができるようプログラムの組み立てをしました。

Bグループ（重度～中度、3・4班）

重度・中度障害の利用者を中心に日中活動に取り組みました。健康に配慮を必要とする利用者に対しては、重点的に健康維持活動を行いました。

作業活動においては年間を通して安定した作業を提供することで、利用者に適切な作業活動の提供を行いました。

2. 家族との協力体制

充実した生活・社会的自立を実現していくために、家族の理解と協力を得ながら、利用者に対する支援内容を充実しました。

家族との面談等により常に情報交換を行いました。また、家族との連絡会を行い支援方針に対する理解を得ながら、一人ひとりの利用者に必要な支援を行いました。

また、家族の協力による家族会の組織により、施設との協力体制を作り相互の理解に基づく施設運営にあたりました。

3. 地域との交流

施設の行事や活動紹介などを通して地域との交流を深め、地域の方々の理解と協力を得ながら事業を進めました。

4. 事故発生防止策・防災対策

(1) 事故発生防止

事故報告書などを活用し、日々点検を行い事故発生防止に取り組み

ました。また、障害者福祉部の事故防止委員会の指針に従い防止に努めました。

(2) 防災対策

福栄会の防災計画に基づき毎月1回防災訓練を実施し、通報訓練・消火訓練・避難訓練を全支援員が習熟するよう努めました。災害時の対応を確実なものとし取り組みました。

第二しいのき学園事業報告

1. 重点目標への対応

(1) ケアマネジメントの視点に立った個別支援計画の充実

利用者および家族・支援者の意向を聞き、アセスメントを行いニーズに適確に対応する活動や作業等のサービスの提供を組み立て、個別支援計画に反映するようにしました。また、個別面談等が十分できなかったため来年度に充実を図ります。

加齢障害者等への適切なサービス提供ができるようアセスメントおよび個別支援計画を作成し実施しました。

(2) 2グループ体制による支援サービスの充実

中軽度障害者グループ

作業を通して、生活の基盤となる「健康維持」と「社会参加訓練」を取り入れた支援を実施しました。作業は、施設内または周辺で取り組める作業を提供しました。

ア 作業の基本となる「集中力」と「継続力」を養いました。

イ 施設を中心とした作業への取り組みを行いました。

軽度障害者グループ

「自立生活」と「就労」を目指した作業への取り組みを実施しました。作業範囲は近隣地域とし、社会的なルールやマナーも含めた支援を行いました。

ア 就労を目的とした生活訓練を行いました。

イ 地域イベントへの参加をしました。

ウ 実習時等のフォロー体制の強化（事前調査 付き添い・訪問・アフターフォロー等）を図りました。

共通支援サービス

加齢に伴うケアを行い、適切なライフステージを提供しました。

ア 健康面に配慮を必要とする利用者には、医療・栄養スタッフとの連携を強化しました。

イ 一定の年齢を基準として、次へのライフステージへの検討を行いました。

(3) 工賃支給

それぞれの作業に応じた支給を行いました。

2. 家族との協力体制

充実した生活・社会的自立を実現していくために、家族の理解と協力により利用者に対する支援内容を充実しました。

常に情報交換を行い、必要に応じて面談を実施しました。また、家族との連絡会を行い支援方針に対する理解を得、一人ひとりの利用者に必要な支援を行いました。また、家族の協力による家族会の組織により、施設との協力体制を作り相互の理解に基づく施設運営にあたりました。

3. 地域との交流

行事への住民参加の機会を持つことや地域イベントにおける自主生産品の販売を通して、近隣との交流を行いました。

4. 事故発生防止策・防災対策

(1) 事故発生防止

事故報告書などを活用し、日々点検を行い事故発生防止に努めました。また、障害者福祉部の事故防止委員会の指針に従い防止に努めました。

(2) 防災対策

福栄会の防災計画に基づき毎月1回防災訓練を実施し、通報訓練・消火訓練・避難訓練を全支援員が習熟するよう努めました。災害時の対応を確実なものとし取り組みました。

〔第一しいのき学園・第二しいのき学園実績資料〕

1. 利用者人員と入退所状況（平成25年3月31日現在）

（1）利用者人員（人）

施設名	定員(人)	現員(人)	内 訳			
			男(人)	比率%	女(人)	比率%
第一しいのき学園	40	53	26	49.0	27	51.0
第二しいのき学園	60	74	47	63.5	27	36.5
計	100	127	73	57.5	54	42.5

注) 内訳の構成率は、現員に対する比率を示します。

（2）入退園状況（人）

施設名	区分	23年度末人員	増	減	24年度末人員
第一しいのき学園 定員 40 名	男	23	5	2	26
	女	28	0	1	27
	計	51	5	3	53
第二しいのき学園 定員 60 名	男	49	2	4	47
	女	30	0	3	27
	計	79	2	7	74
合計	男	72	7	6	73
	女	58	0	4	54
	合計	130	7	10	127

2. 年齢状況

（1）年齢構成（人）

施設	第一しいのき学園			第二しいのき学園			しいのき学園合計			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	%
年齢(歳)										
～19	4	2	6	1	1	2	5	3	8	6.3
20～29	7	5	12	17	5	22	24	10	34	26.8
30～39	8	12	20	15	13	28	23	25	48	37.8
40～49	7	7	14	10	5	15	17	12	29	22.8
50～59	0	1	1	1	2	3	2	2	4	3.1
60～69	0	0	0	3	1	4	3	1	4	3.1
70～	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
人数計	26	27	53	47	27	74	74	53	127	100.0
最年少	19	19	19	19	18	18	19	19	19	
最高齢	42	51	51	69	66	69	69	66	69	

(2) 平均年齢 (歳)

施設名	男	女	平均
第一しいのき学園	31.9	35.7	33.8
第二しいのき学園	35.8	38.7	36.9
しいのき学園平均	34.4	37.2	35.6

注) 内訳の構成比率は、現員に対する比率を示します。

3. 障害状況

(1) 愛の手帳による利用者の障害状況 (人)

愛の手帳	1度			2度			3度			4度			非該当			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
施設名																		
第一	1	1	2	22	21	43	2	3	5	0	2	2	1	0	1	26	27	53
第二	0	0	0	13	4	17	25	15	40	8	8	16	1	0	1	47	27	74
計	1	1	2	35	25	60	27	18	45	8	9	18	2	0	2	73	53	127
構成比	1.6%			47.2%			35.4%			14.2%			1.6%			100%		

(2) 身体障害者手帳を併所持する利用者の状況

第一しいのき学園の状況

(人)

愛の手帳		1度	2度	3度	4度	非該当	合計
所持人数		2	43	5	2	1	53
身障手帳	1級	肢体 2	肢体 2			肢体 1	肢体 5
	2級		肢体 4	肢体 1			肢体 5
	3級		肢体 4 視覚 1				肢体 4 視覚 1
	計	2	11	1	0	1	15

第二しいのき学園の状況

(人)

愛の手帳		1度	2度	3度	4度	非該当	合計
所持人数		0	17	40	16	1	74
身障手帳	1級			肢体 1	肢体 1	肢体 1	肢体 3
	2級			肢体 1			肢体 1
	3級						
	4級				肢体 2		肢体 2
	計	0	0	2	3	1	6

第一しいのき学園の障害程度区分の状況

(人)

	区分	1	2	3	4	5	6	合計
愛の手帳 内訳	1度	0	0	0	0	0	2	2
	2度	0	0	22	10	6	5	43
	3度	0	0	4	0	0	1	5
	4度	0	0	1	1	0	0	2
	非該当	0	0	0	1	0	0	1
	合計	0	0	27	12	6	8	53

4. 通園状況

(1) 利用者の出席状況

(人)

施設名	年間開所 日数	要出席者 延べ人数	出席者 延べ人数	利用率 (%)
第一しいのき学園	254	10,160	11,366	111.9
第二しいのき学園	256	15,360	16,790	109.3

(2) 送迎車両運行および利用者状況

(人)

送迎車両 コース	利用 人数	所要時間 (分)	対応車種	運転	添乗者
荏原コース	17	95	マイクロバス 29人乗	職員	職員 1
東海コース	19	85	リフト付マイクロバス	委託	職員 1
大井町コース	9	80	車いす対応ワゴン	職員	職員 1
西大井コース	9	90	8人乗ワゴン	職員	職員 1
合計	54	車椅子 2台対応車両。合計 4コースで 8台対応。			

(3) 通園形態

(人)

施設		第一しいのき学園			第二しいのき学園			しいのき学園合計		
通園形態		男	女	計	男	女	計	男	女	計
自力 通園	徒歩	1	0	1	10	9	19	11	9	20
	交通機関	0	1	1	27	14	41	27	15	42
	小計	1	1	2	37	24	60	38	24	62
家庭 介護 通園	徒歩等	4	2	6	3	0	3	7	2	9
	交通機関	0	0	0	2	0	2	2	0	2
	小計	4	2	6	5	0	5	9	2	11
送迎車両利用		21	24	45	5	3	8	26	28	54
合計		26	27	53	47	27	74	73	54	127

5. 支援概要

(1) グループ編成 (年度末現在)

(人)

施設	グループ	班						合計		
		1班			2班					
第一しいのき学園	A	男	女	計	男	女	計	男	女	計
		5	8	13	4	9	13	9	17	26
		3班			4班			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
9	6	15	8	4	12	17	10	27		
第二しいのき学園	C	5班			6班			合計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
		11	7	18	11	5	16	22	12	34
	D	7班			8班			合計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
		14	7	21	11	8	19	25	15	40

(2) クラブ活動の実施状況

第一しいのき学園

毎週火曜日の午後と木曜日の午前に実施しました。

活動	内容
音楽レクリエーション	火曜日の午後に鈴木純子講師のもと、楽器や歌などを通し身体を動かしたり、歌をうたうなどの活動を行いました。
ダンス	木曜日の午前にクラブ講師のもと、ダンスを通して心身のリフレッシュを行っています。実習室を使用し行いました。
スポーツ	木曜日の午前にマイクロバスを使用しスポーツの森などまで行き、体力に合わせたコースを歩いています。また、その他にも近隣の散歩も行っています。

第二しいのき学園

毎週火曜日の午後に活動を実施しました。

活動	内容
芸術	クラブ講師2名のもと、「書道」と「創作(絵画)」に分かれて活動しています。共に仕上がった作品は、法人内の作品展をはじめ館内に展示しています。
ダンス	木曜日の午前にクラブ講師のもと、ダンスを通して心身のリフレッシュを行っています。クラブ講師の指導のもと、2階のフロアにて実施しています。

(3) 年間行事の実施状況

月	実施日	行事名	備考
4	2日(月)	新利用者を迎えるつどい	
	6日(金)	第1回学園連絡会	学園連絡会
5	13日(日)	第20回福栄会まつり	
7	3日(火)・4日(水)	しいのき学園健康診断	実費での健康診断
9	22日(土)	みんな集まれふくしままつり	区行事
11	2日(金)	第一しいのき学園日帰り旅行	上野動物園
	6日(水)	品川菜園収穫祭	
	8日(祝月)	第二しいのき学園日帰り旅行	ズーラシア
	16日(金)	第一しいのき学園日帰り旅行	上野動物園
	30日(金)	第一しいのき学園日帰り旅行	上野動物園
12	5日(水)	しいのき学園祭り	
	9日(日)	品川区障害者週間記念のつどい	区行事
	14日(金)	第2回学園連絡会	学園連絡会
1	31日(金)	新成人を祝う会	
3	29日(金)	慰労会	

(4) 第二しいのき学園の作業実施内容

作業内容

作業種目	内 容
クリーニング (集荷・納品 を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・区内保育園 17ヶ所のシーツ、白衣、掛けカバー、エプロン等の洗濯、たたみ ・同法人老人施設(入所・通所共に)のオムツ、タオル、リネン類、私物、 予防衣、シーツ、エプロン等、たたみ、おしぼり ・同法人障害者(入所・通所共に)施設のタオル、私物、エプロン等、 たたみ、おしぼり ・同法人内での制服の洗濯 かもめ第三工房と共同での作業 ・区内老人施設の私物、タオル、おしぼりのたたみ、ハッピー ・図書館の風呂敷の洗濯 ・一般クリーニング企業より委託されたタオルの洗濯、たたみ ・区内のレストランのおしぼりの洗濯
清掃作業	<ul style="list-style-type: none"> ・区内公園 16ヶ所の清掃、同法人館内、外周清掃、2～5階 食堂清掃

	・同法人サービスセンターの外周清掃、東品川わかくさ荘の館内清掃
軽作業	・ワカエ（車部品）、パンフレット、新聞納品（塗装資材） ・内職（封入作業など）、ペン入れ、帯かけ、シール張り等
お菓子 自主製品作り	・喫茶海岸通り販売用お菓子製造、販売 ・地域の各種イベントの参加 ・晴楓ホーム誕生日会用ケーキの製造 ・贈答用お菓子の製造、販売 ・自主製品（箸袋入れ、ランチョンマット等の手作り工芸品など）の製造、販売
リサイクル	・同法人内機密処理、古紙回収及び販売、アルミ、鉄屑販売 ・エコキャップ運動（ペットボトルキャップの回収）
品川菜園作業	・品川菜園（品川区旗の台）における野菜の栽培 ・農園、菜園で収穫した野菜を使用した「収穫祭」の実施
喫茶実習	・喫茶「海岸通り」での喫茶作業（接客・掃除・金銭の授受等）
緑化活動	・同法人館内植物の環境整備、管理
就労実習	・企業や他施設等での就労実習及び、退園利用者へのアフターフォロー （平成24年度 一般企業就労1名、就労移行支援1名）

各作業の実施状況

ア クリーニング受託保育園等と作業量 (枚)

委託業者名	リネン類	タオル・オムツ類	衣類	その他
区立保育園（12園）	93,650		64	
私立保育園（5園）	9,243		29	
品川図書館				1,378 1
晴楓ホーム	9,315	80,233 4	10,128 2	577 3
大崎在宅サービスセンター	372	664		
春光福祉会		637,959 4	4,506 2	
東品川在宅サービスセンター	275	21,841 4		130,115 5
西大井福祉園	7	5,399		
かがやき園		16,577		
家庭あんしんセンター		4,700		
一般クリーニング企業		8,723 6		

区内のレストラン		8,200	7		
法人内部（制服）				25,517	

- 1 品川図書館 風呂敷(枚)
- 2 単位は kg
- 3 晴楓ホーム その他はオムツカバー、予防衣
- 4 晴楓ホーム・春光福祉会・東品川在宅サービスセンター
タオル・オムツ類におしぼりを含む
- 5 東品川在宅サービスセンター その他は利用者エプロン等
- 6 一般クリーニング企業(H24.3月より開始) クリーナータオル(雑巾)
- 7 区内のレストラン おしぼりのみ

イ 清掃受託公園と作業スケジュール

	公園名	作業スケジュール	施設分担	所在地	面積 m ²
1	聖跡公園	月・水・金(週3回)	第二しいの き学園	北品川	2,354
2	八ツ山公園	月・水・金(週3回)		北品川	462
3	東八ツ山公園	月・水・金(週3回)		北品川	1,443
4	品海公園	月・金(週2回)		北品川	544
5	品川浦公園	月・金(週2回)		北品川	470
6	台場浦公園	月・金(週2回)		北品川	543
7	北品川公園	月・金(週2回)		北品川	526
8	東品川1丁目公園	月・金(週2回)		東品川	627
9	東海公園	月・金(週2回)		東品川	762
10	北浜公園	月・水・金(週3回)		東品川	1,787
11	洲崎公園	月・金(週2回)		東品川	1,264
12	敬老公園	月・金(週2回)		東品川	1,080
13	東海第二公園	月・金(週2回)		東品川	361
14	東品川ひだまり緑地	月・金(週2回)		東品川	156
15	南品川二丁目児童遊園	月・金(週2回)		南品川	365
16	南品川児童遊園	月・金(週2回)		南品川	198
17	原っぱ公園	月・水・金(週3回)	西大井福祉 園	西大井	2,304
18	富士見が丘児童遊園	月・水・金(週3回)		西大井	1,367
19	伊藤児童遊園	月・金(週2回)		西大井	225
20	上神明児童遊園	月・水・金(週3回)		二葉	1,285
21	上蛇広場	月・水・金(週3回)		荏原	206
22	谷垂公園	月・水・金(週3回)	かがやき園	西大井	564

23	北品川三丁目児童遊園	月・金(週2回)	かもめ第一	北品川	339
24	荏原西公園	月・金(週2回)		荏原	365
25	小山四丁目児童遊園	月・金(週2回)		荏原	222
26	西中延公園	月・金(週2回)	かもめ第二	荏原	345
27	かむろ坂公園	月・金(週2回)	かもめ第三	五反田	1131
28	西八丁公園	月・金(週2回)		五反田	519
29	谷山公園	月・金(週2回)		五反田	775
30	亀の甲緑地	月・金(週2回)		五反田	157
31	西五反田六丁目児童	月・金(週2回)		五反田	296
32	にしよん広場	月・金(週2回)		五反田	346
33	西五反田四丁目遊園	月・金(週2回)		五反田	41
34	中原公園	月・金(週2回)		荏原	419
35	中原東公園	月・金(週2回)		荏原	348
36	荏原児童遊園	月・金(週2回)		荏原	146
	36公園			総面積	24,342

ウ 自主生産品の販売状況

シンフォニー（福栄会自主生産グループ）として地域の各種イベントへの出店参加、近隣企業の社会貢献活動の協力による自主生産品の社内販売等、利用者が直接販売体験をすることにより、地域と関わる機会を作りました。シンフォニーとして平成24年度は、42カ所のイベントに出店しました。

自主製品の常設販売としては、下記のとおりです。

喫茶「海岸通り」での販売：福栄会1階

福祉ショップテルベでの販売：イトーヨーカドー6階

「臨海斎場」店内での販売：NPO法人ぴゅあさぼーと

エ 資源リサイクル事業

ゴミの分別を徹底して減量化に努めています。紙・金属など資源に分別しています。

ペットボトルのキャップはエコキャップ運動に参加しています。

工賃支給状況（第二しいのき学園）

年間総支給額	13,817,900円
支給対象利用者延べ人数	917人
月平均工賃（1人）小数点以下四捨五入	15,069円

(5) 健康管理

健康診断の実施状況

ア 実施日

回	時期	受診科目
第1回	7月3・4日	内科診察(身長・体重・血圧)・尿検査・問診 胸部レントゲン撮影(直接)・血液検査・心電図

イ 受診状況

第一しいのき学園 38名〔70%〕

第二しいのき学園 52名〔68%〕

「お口の健康チェックと歯みがきレッスン」の実施

ア 目的：第二しいのき学園利用者で希望者対象に歯科医師による口腔チェックと歯科衛生士による歯磨きレッスン。

イ 主催：品川区歯科医師会および品川区保健センター

ウ 実施：平成24年10月15日・11月5日

エ 受診者：第二しいのき学園 37名

6. 家族とのかかわり

(1) 学園連絡会の開催状況

区分	実施日	内容
第1回学園連絡会	4月6日(金)	新利用者の紹介とグループ編成について・ 24年度の学園の活動について・職員紹介
第2回学園連絡会	12月14日(金)	上半期の事業報告・防災マニュアルの策定に ついて・大規模修繕(館内空調設備工事)に ついて・感染症対策について

(2) しいのき報の編集内容

発行月	しいのき報 発行内容
4月	新年度あいさつ 異動職員あいさつ
5月	新年度を迎える集い報告 新任職員あいさつ
6月	福栄会まつり報告 職員紹介 お知らせ
7月	シンフォニー出店報告(さつき祭り・住宅まつり・イベントお知らせ) 健康診断予定
8月	七夕飾り イベント報告(みなと夏祭り・青鳥夏祭り) 医務室より お知らせ
9月	洲崎町会夏祭り・東親会夏祭り参加報告 お願い

10月	イベント参加報告(ふくし祭り・ダンス発表・育成会運動会) 退職者あいさつ
11月	第二しいのき日帰り旅行報告 シンフォニー出店報告 医務室より
12月	第一しいのき学園日帰り旅行報告 品川菜園収穫祭報告 お願い 年末年始について
1月	新年のあいさつ しいのき祭り報告
2月	新成人を祝う会報告 看護師より
3月	感染症について 館内空調工事について

7. 地域とのかかわり

(1) ボランティアの受け入れ状況 (人)

活動名	人数	期間等	内容
クラブボランティア	1	木曜午前	ダンスクラブ補助
日帰り旅行ボランティア (第一しいのき学園)	2	11月2日(金)・ 16日(金)・30日(金)	利用者の介助等
日帰り旅行ボランティア (第二しいのき学園)	1	11月23日(金)	利用者の介助等
美容ボランティア	15	2年回	利用者の整髪・美容指導
作業補助	3	毎週木曜・金曜	作業補助

(2) 地域交流実施状況

	活動内容	実施日等	職員出席・派遣
品川区 行事	みんな集まれふくしまつり	9月22日(土)	しいのき看護師1名派遣 シンフォニー販売 ダンスクラブ発表
	障害者週間記念のつどい	12月9日(日)	しいのき看護師1名派遣 しいのき2名・西大井1名 かがやき園1名
	品川区重症心身障害者通所 施設「ピッコロ」開所式	5月9日(水)	法人1名 しのき1名
障害者 団体 旅行 ・行事	育成会運動会補助	9月17日(月)	しいのき1名・児童学園1名 西大井1名
	守る会一泊旅行補助(那須)	10月21日(日) ~22日(月)	しいのき1名・西大井1名

	育成会旅行補助(御殿場方面)	12月24日(月)	しいのき1名・西大井1名
	育成会新年総会	2月9日(金)	しいのき1名・西大井1名 かがやき1名
学校等 関係	品川特別支援学校公開	6月19日(火)・ 11月8日(木)	しいのき 各1名
	とうかいどう保育園(遠足)	10月27日(土)	マイクロバス1台貸出
	港特別支援学校卒業式	3月19日(火)	しいのき1名
	品川特別支援学校卒業式	3月22日(金)	しいのき1名
	港特別支援学校平成24年度 四区合同進路説明会	7月9日(月)	しいのき1名・西大井1名 かがやき1名

(3) 特別支援学校等実習受け入れ状況

区 分	第一しいのき学園	第二しいのき学園	備 考
港特別支援学校	6名	5名	高等部3年生徒
	1名	1名	高等部2年生徒
	2名	1名	高等部1年生徒
城南特別支援学校	1名		高等部2年生徒
品川特別支援学校		9名	中学部2年生徒(1日)
げんき品川		1名	就労移行支援

(4) 実習・研修生の年間受入れ状況

区 分	人数	備 考
専門学校・大学等	34名	保育、社会福祉援助技術現場実習、介護実習等
教員ボランティア	18名	教員免許取得希望者の社会福祉施設介護体験事業実習

8. 職員外部研修参加状況

(人)

分野	実施機関・主催	日 程	内 容	参加 人数
利用者 支援	東京都障害者通所活動施設職員研修会第2回研修会	7月23日(月)	「障害を持つ人とのかかわりからみた人間のこころ・関係・社会」	1
	知的発達障害部会主催	9月29日(土)	利用者支援研究会学習会 「口腔衛生と食事」	1

	知的発達障害部会主催	2月27日(水)	利用者支援研究会第14回学習会「日中活動」	1
てんかん関係	日本てんかん協会	8月2日(木) ～3日(金)	第17回てんかん援助セミナー	1
		8月7日(火) ～8日(水)	第35回てんかん基礎講座	1
	知的発達障害部会主催	10月31日(水)	利用者支援研究会学習会「てんかんの基礎知識講座」	1
就労関係	第3回就労支援関係連絡会	11月29日(木)	学研スマイルハート職場見学会	1
	障害者就業・生活支援センターアイ - キャリア主催	2月15日(金)	「発達障害を理解し支援するために」	1
虐待関係	東京都障害者通所活動施設職員研修会	5月31日(木)	第1回研修会「障害者虐待防止法と支援者の課題」	1
	品川区主催 障害者虐待防止講演会	1月30日(水)	「障害のある人の暮らしを支える」	5
	東京都福祉保健局	2月1日(水)	平成24年度東京都障害者虐待防止・権利擁護研修	1
相談支援関係	東京都社会福祉協議会 知的発達障害部会・東京都 障害者通所活動施設職員 研修会主催	9月14日(金)	合同学習会「相談支援の実際と充実について」	1
		12月13日(木)	合同学習会「相談支援の現状と課題」	1
	東京都心身障害者福祉センター	12月4日(火)	東京都自立支援協議会セミナー「地域の相談支援の現状を考える」	1
	東京都心身障害者福祉センター	1月～2月 (6日間)	東京都相談支援従事者初任者研修	1
	日本知的障害者福祉協会	1月24日(木) ～25日(金)	平成24年度地域支援・相談支援セミナー	1
品川区関係	品川区社会福祉協議会 品川福祉カレッジケアマネジメントコース	9月21日(金) ・10月25日(木)	「介護に役立つ医療知識講座」	4
	品川区障害者福祉課主催 品川区地域自立支援協議会強化推進研修	10月26日(金) ・11月9日(金)	「アセスメント技術を高める」	2

	品川区障害者福祉課主催 品川区地域自立支援協議 会強化推進研修	3月12日(火)	「医療保健分野と福祉」	4
職員 研修	東京都社会福祉協議会 知的発達障害部会主催	6月8日(金) ~9日(土)	「新人職員研修」	1
		11月29日(木)	「新人研修フォローアップ研修」	1
	法人安全衛生委員会主催	11月16日(金)	「感染症の今、を知ろう」	
	障害者福祉部部内研修	7月11日(水)	「重症心身障害者の親として歩んできた道」	12
		2月28日(木)	「人格障害」	計50
障害者福祉部職員交換研 修	1月9日(水) ~6日間	第二しいのき学園と西大井 福祉園職員交換研修	1	
衛生 管理 関係	東京都食品衛生協会	10月30日(火)	食品衛生責任者養成講習会	1
	品川区保健所生活衛生課	3月7日(木)	営業許可更新講習会	1

9. サービス評価受審の状況

(1) 東京都福祉サービス第三者評価受審

評価機関 株式会社 にほんの福祉ネット

評価時期 平成25年3月

評価内容 福祉サービス第三者評価システム手法による利用者調査

対象施設 第一しいのき学園・第二しいのき学園

(2) 品川区施設サービス向上研究会セルフチェック実施

評価時期 平成24年11月

評価内容 セルフチェック実施(自己評価)

対象施設 第一しいのき学園・第二しいのき学園

10. トワイライトおよびナイスデイサポート実施状況

(1) 家族支援事業「トワイライトステイ」利用状況

(人)

施設	第一しいのき学園			第二しいのき学園			合 計		
	利用者 実数	利用 1時間	利用 2時間	利用者 実数	利用 1時間	利用 2時間	利用者 実数	利用 1時間	利用 2時間
4月	9	12	20	1	0	1	10	12	21
5月	9	14	28	0	0	0	9	14	28
6月	9	19	22	3	0	4	12	19	26
7月	8	20	13	2	0	2	10	20	15
8月	14	5	42	4	2	4	18	7	46
9月	11	6	35	2	2	1	13	8	36
10月	8	8	39	2	0	2	10	8	41
11月	8	8	27	3	4	1	11	12	28
12月	7	5	20	1	2	0	8	7	20
1月	1	1	3	0	0	0	1	1	3
2月	4	7	6	0	0	0	4	7	6
3月	10	10	12	1	0	2	11	10	14
合計	98	115	267	19	10	17	117	125	284
月平均	-	9.6	22.3	-	0.8	1.4	-	10.4	23.7

11. ヒヤリハット・事故発生状況

(1) ヒヤリハット報告

施設	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
第一しいのき学園	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
第二しいのき学園	0	0	3	4	0	0	0	0	1	0	0	0	8

(2) 事故報告

施設	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
第一しいのき学園	0	1	3	1	5	1	2	0	0	0	2	0	15
第二しいのき学園	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3

品川区立西大井福祉園事業報告

1. 重点目標への対応

(1) 利用者の体調の変化に留意

毎日のバイタルチェックは、看護師を中心に実施しました。変化については、家庭へ連絡し情報交換を行い利用者の状態把握に努めました。

また、ご家族の介護力の低下により利用者の通院が著しく困難になった事例に対しては区役所および相談支援事業準備室と連携し通院の付き添いを行いました。

(2) 利用者に配慮した活動の提供

就労支援グループは、作業種目の拡充し適性作業を提供できるよう努めました。就労グループの作業拡充により、生活介護グループにて生産活動に従事している利用者への作業の提供機会も広がり、利用者の意欲向上に効果を発揮することができました。

また、生活介護グループではレクリエーション活動の種目の拡充や区の作品展への出展を行いました。利用者が主体的に取り組める活動の提供に努めました。

(3) 個別支援計画に基づいた支援

個別面談を実施し希望や目標の聞き取りを行いました。緊急時などは、利用者状況及びご家族の状況について園全体で情報交換及び共有をし適切な支援が行えるよう努めました。

ケアマネジメント委員会をにて、25年度に開設する福栄会障害者相談支援センターとの連携を図るため、障害者福祉部全体で共通のシステムと書式・ファイリングを進める事を目標にし、年度内にフェイスシート・アセスメントシートの書式検討と作成を行いました。各施設の利用者のケースマネジメントを進めやすい環境を整える第一歩を確実に進めました。

(4) 介護技術及び介護知識の向上

職員の介護技術及び介護知識の向上を目的に法人内研修を計画及び外部研修への参加を行いました。24年度は介護技術だけではなく虐待防止の研修にも参加し支援の向上に努めました。

2. 支援状況

(1) 事業およびグループ支援体制

多機能事業所として生活介護事業と就労継続支援B型事業の2つの事業の運営を行いました。就労継続支援・生活介護事業とも、ニーズの近い利用者を2つないし3つのユニットに分け、利用者ニーズを重視した支援をおこないました。

(平成24年3月末)

グループ	男	女	利用者合計
生活介護	23	11	53
就労継続支援B型	15	4	

(2) 年間行事等の実施状況

月	日	行事内容	備考
4	2	新利用者を迎える集い	新利用者2名
	27	第1回園連絡会・家族会総会	
5	13	第20回福栄会まつり	
6	9	第7回そよかぜまつり	家族会共催
	29	夕食会	家族会主催
8	30	プール活動	生活介護
9	27	就労日帰り旅行一班	それいゆの丘
10	11	就労日帰り旅行二班	それいゆの丘
	26	第2回園連絡会	
11	8	就労日帰り旅行三班	スカイツリー
	20	生活日帰り旅行一班	八景島シーパラダイス
	29	生活日帰り旅行二班	八景島シーパラダイス
12	25	西大井忘年会	
1	11	成人を祝う会	2名対象
3	13	西大井慰労会	
	22	第三回学園連絡会	

(3) 防災訓練の実施状況

回	実施日	内 容
1	4月26日	火災想定による避難訓練
2	5月24日	火災想定による避難訓練
3	6月28日	火災想定による避難訓練
4	7月26日	火災想定による避難訓練
5	8月23日	火災想定による避難訓練
6	9月20日	地震後火災想定による避難訓練(大井消防立ち会い)
7	10月25日	火災想定による避難訓練
8	11月28日	火災想定による避難訓練
9	12月27日	地震後火災想定による避難訓練
10	1月24日	地震想定による避難訓練
11	2月21日	火災想定による避難訓練
12	3月21日	地震後火災想定による避難訓練

(4) クラブ活動の実施状況(生活介護事業)

活動名	内 容
ドライブ	八潮スポーツの森・京浜島・東品川海上公園・お台場・東京タワー周辺など、その他にも園バスを利用し、出かけました。場所により散歩もしました。
音楽レクリエーション	山口講師による音楽レクリエーションを月に2回実施しました。 職員が行う音楽レクリエーションを週に1回実施しました。
ヨガ	体を動かす活動としてストレッチ及びヨガのポーズを利用した活動を週に1回実施しました。
書道	墨と筆を使って字を書いたり絵をかいたりする活動を週に1回実施しました。
ダンス	毎月曜日の午後、沖千里講師の指導のもとにダンスを行ないました。沖千里先生の「ジャズダンス教室発表会」に出演しました。

(5) 作業支援状況

清掃作業・軽作業は作業の拡充を行い、工賃及び生産活動手当を賃上げしました。

作業の内容

作業種目	内 容
クラフト作業 (自主製作品)	・ビーズ製品...携帯ストラップ、メガネチェーン等 ・織物...マフラー ・牛乳パックリサイクル製品...押し花はがき、しおり
軽作業	・宅配寿司の箸セット、割箸袋入れ、惣菜パックへのシール貼 お弁当箸セット、チラシ折り、他
清掃作業	・近隣区立公園ヶ所の清掃（原っぱ公園の清掃開始） (しいのき学園事業報告の公園清掃の状況欄をご覧ください。) ・森前障害者施設清掃

クラフト製品販売状況年間15本の催事販売を実施しています。(シンフォニーとして出展)そのほか、ひかり薬局・リボン旗の台店への納品を行っています。西大井福祉園内での保護者への販売も随時実施しました。

3. 職員研修参加状況

(1) 外部研修

実施機関・主催	研修名・内容	日 程	参加人数
東京都福祉保健局	サービス管理責任者研修 第三分野(就労支援継続)	10/6	1
てんかん協会	てんかん基礎講座	8/7	2
財)日本社会福祉士会	社会福祉士実習指導員講習		1
財)日本介護福祉士会	介護福祉士実習指導講習会		1
東京都福祉保健局	障害者虐待防止・権利擁護委員会	9/8	3
東京都福祉保健局	障害者虐待防止・権利擁護委員会	2/1	1
品川総合福祉センター かもめ園	現場研修		1
大田幸陽会	現場研修	12/3~6	1

(2) 法人内部研修

研 修 内 容	日 程	参加人数
幹部職員研修	8月25日(土)	1
法人経営基礎研修	11月10日(土)	2
法人経営基礎研修	12月 8日(土)	1

(3) 部内研修

研修内容	日程	参加人数
重症心身障がい者の親として歩んできた道	7月11日(水)	1
感染予防研修	11月16日(金)	
人格障害等について	2月28日(木)	50

4. 家族支援事業「トワイライトステイ」実施状況

内 訳	件数	17:15~18:15	17:15~19:15
利用件数合計	239	155	84

5. 家族とのかかわり

(1) 家族参加行事等の開催状況

区 分	内 容	実施日	備 考
家族会主催行事	夕食会	5月14日	職員参加
家族会共催行事	そよかぜまつり	6月11日	模擬店手伝いなど
家族会参加行事	慰労会	3月13日	ゲームへの参加

(2) 園連絡会等の開催状況

回	実施日	内 容
第1回	4月27日(金)	平成24年度事業計画について 平成23年事業報告について
第2回	10月28日(金)	中間報告
第3回	3月22日(金)	平成24年度事業報告 平成25年度事業計画について サービス体制について他

6. ボランティアの受け入れ状況

活動名	人数	期間等	内 容
クラフト作業補助		通年	押し花はがき ビーズ
クラブ活動講師	2	通年(第2・4金曜日)	ダンス・音楽クラブ
グループ補助	2	通年(毎火曜日)	利用者介助、活動補助
美容カット	7	通年(偶数月)	利用者散髪
食堂配膳	2	通年(月・木・金曜日)	昼食配膳手伝い

7. 利用者実習生の受け入れ状況(年間延べ人数)

区 分	人数
港特別支援学校実習生	9名
その他	2名

8. 職員実習生受け入れ状況

福祉系学校	10名
介護系学校	10名

9. 付表

(1) 利用者人員と入退所状況(平成25年3月31日現在)

利用者人員

定員	現員	内 訳			
		男	比率%	女	比率%
40名	53名	38名	72%	15名	28%

注) 内訳の構成比率は、現員に対する比率を示す。

入退園状況

区分	年度当初人員	増	減	年度末人員	増減理由
男	38名	1名	1名	38名	他施設移行による退園 他施設からの移行
女	12名	3名	0名	15名	
計	49名	0名	0名	5名	

(2) 年齢状況(平成25年3月31日現在)

年齢構成

年齢(歳)	男	女	計	%
18~19	0	2	2	4
20~24	4	3	7	13
25~29	4	2	6	11
30~34	12	3	15	28
35~39	11	1	12	23
40~44	4	2	5	9
45~49	1	0	1	1
50~54	1	1	2	4
55~99	0	0	0	0

60～	1	1	2	4
人数計	38	15	53	100
最年少	19	19		
最高齢	68	68		

平均年齢

区分	男	女	平均
平均年齢	34.6歳	31.8歳	33歳

(3) 利用者の入園前状況(平成25年3月31日現在)

区分	内容	構成 人員	内 訳	
施設移行 在宅等	しいのき学園	8名		
	区内施設からの 移行	10名	ふれあい作業所	1名
			区立心身障害者福祉会館	6名
			かがやき園デイサービス	3名
	区外施設からの 移行	5名		
	在宅	1名		
	就労	4名		
	計	28名		
学校等	特別支援学校高 等部	25名	港特別支援学校高等部	24名
			城南特別支援学校高等部	1名
		計	25名	
合計		53名		

(4) 障害状況

愛の手帳による利用者の障害状況

1度			2度			3度			4度			合計		
男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
0	0	0	22	10	40	13	4	17	3	1	4	38	15	53

身体障害者手帳を併所持する利用者の障害状況

愛の手帳 所持人数		1度	2度	3度	4度	合計
		0名	30名	17名	3名	50名
身体 障害者 手帳	1級		肢体2名			肢体2名
	2級		肢体1名	肢体1名		肢体2名
	3級		肢体1名			肢体1名
	5級			肢体1名		肢体1名
	計	0名	4名	2名	0名	6名

主な合併症状をもつ利用者の状況

愛の手帳	1度			2度			3度			4度			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
利用者人数	0	0	0	22	10	30	13	4	17	3	1	4	38	12	53
ダウン症候群	0	0	0	4	1	5	2	0	2	0	0	0	6	1	7
広汎性発達障害	0	0	0	8	2	10	5	0	5	0	0	0	13	2	15
てんかん	0	0	0	7	4	10	6	1	7	2	0	2	14	5	19

障害者自立支援法障害認定区分の状況（平成25年3月31日現在）

認定区分：非該当2名

現員	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
人数	2名	11名	20名	13名	3名	2名	51名

(5) 通園状況

西大井福祉園通園形態（平成25年3月31日現在）(人)

施設	西大井福祉園			
通園形態	男	女	計	
自力通園	徒歩	7	2	9
	交通機関	2	0	4
	小計	9	2	13
家庭介護通園	徒歩等	4	5	6
	小計	4	5	6
送迎車両利用	25	8	33	
合計	38	15	53	

送迎車両運行および利用者状況（平成25年3月31日現在）

送迎車両コース	利用人数	所要時間	対応車種	運転	添乗者
リフト・コース	13名	75分	リフトバス	委託	職員1名
キャラバン・コース	10名	80分	キャラバン	職員	職員1名
西大井チェア・コース	5名	40分	キャラバンチェア	委託	職員1名
軽自動車・コース	5名	50分	軽自動車	職員	職員1名
計	33名	キャラバン・コース、軽自動車コースは2便運行			

利用者の出席状況（平成24年度）

要出席者延べ人数	出席者延べ人数	出席率
10,800	10,872	101%

要出席延べ人数は月日数 - 8 で計算

出席者延べ人数は、昨年比 - 171人

(6) ヒヤリハット・事故件数

	ひやりはつと	事故報告
4月	1	2
5月	0	4
6月	1	3
7月	0	0
8月	0	2
9月	0	1
10月	0	0
11月	0	1
12月	0	1
1月	0	2
2月	1	0
3月	0	2
合計	3	18

(7) 感染症関係

インフルエンザ	ノロウイルス
1名	2名

品川区立西大井つばさの家事業報告（共同生活援助）

1. 重点目標への対応

(1) 個別支援計画

つばさの家の利用率が向上した原因として、保護者の高齢化等により週末の帰宅がかなわなくなってきたことが背景にあります。家族を含めたライフステージの変化を察知した対応を心がけました。

高齢期を迎えつつある利用者に食事面や早目の受診等、健康面に配慮した対応をしました。休日の一部の食事については、利用者の自発的な食事準備を促してきましたが、高齢期を迎えつつある利用者に栄養バランスを配慮した食事の提供をするため、世話人による食事提供体制を整えました。

また、受診回数は定期通院、突発的な通院を含め増加傾向にありました。世話人との連絡体制を密にし早めの受診を心がけました。通院については、夜間ではなく日中の通院に切り替え利用者の負担を減らすとともに、西大井福祉園看護師が同行することにより専門的な視点を取り入れられるよう努めました。

利用者が通所している施設や作業所の個別支援計画と連動し、連携して支援を行いました。通所施設のカンファレンス、個別面談にも参加しました。

通所先の施設が主催する保護者会・連絡会等に職員が参加し情報共有を図りました。必要に応じて所属施設、家庭への電話連絡・個別面談なども行いました。

(2) 研修会等への参加

「障害者虐待防止の防止、障害者の擁護者に対する支援などに関する法律」の施行に併せ研修に参加しました。

2. サービス支援体制

(1) 支援体制

つばさの家利用者	7名
世話人	2名（常勤換算）
管理者・サービス管理責任者	1名（西大井福祉園管理者兼務）
障害者部よりの協力	西大井福祉園支援員
夜間支援体制	西大井福祉園 かがやき園

(2) 支援内容

つばさの家における「食事提供」「健康管理」「金銭管理」「日常生活に必要な支援」については、事業計画に基づき実施いたしました。その中での特記としては次の事項があげられます。

食事提供

5月より全日朝夕の食事提供を開始しました。

健康管理

加齢に伴う骨粗鬆症や、体調の変化による不調、体力の低下が、目立ってきています。頭痛、高血圧、糖尿、高尿酸血症、関節の痛み等の原因で通院が多くなってきています。それにともない通院介助の場面が増えています。23年度に引き続き、利用者、世話人が健康管理に努め、24年度も罹患者は、ありませんでした。

定期的な通院は一人でも通えるよう繰り返しの練習を行っています。また、必要な情報交換を主治医とサービス管理責任者、世話人とで行い、日中活動先の施設にも報告し、目標を共有するように努めました。

金銭管理

通帳・印鑑の管理状況

つばさの家での預かり金管理	4名
ご家族による管理 後見人による管理1名	3名

預かり金については四半期ごとに精算、確認を行いました。

(4月、7月、10月、1月の4回)

年間行事

実施日	行事等内容	備考
1月 1日	理事長 年頭の挨拶来所 新年初詣(上神明天祖神社)	未帰省者対応
1月27日	GH森前と合同日帰り旅行	柴又帝釈天、お台場等
3月 2日	近隣町会との合同防災訓練	大井消防署立会い

利用者ミーティングを毎月第一月曜日に実施しました。

その他

平成24年度は、品川介護専門学校の障害者施設実習の学生を6名受けました。

6. 家族との協力体制

利用者の家族とは必要に応じて連絡を取り合い情報交換、相談に努めました。

家族連絡会実施状況

	家族連絡会実施日	内 容
1	第1回 6月	平成23年度事業報告、平成24年度計画の説明、食事代等の精算について提供食事の試食

7. 付表

(1) 利用者人員(平成25年3月31日現在)

定員	現員	内 訳			
		男	比率%	女	比率%
7名	7名	6名	85.7%	1名	14.3%

(2) 入退所状況

区分	年度当初人員	増	減	年度末人員
男	6名	0名	0名	6名
女	1名	0名	0名	1名
計	7名	0名	0名	7名

(3) 愛の手帳による利用者の障害状況

愛の手帳	2度			3度			4度			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
利用者人数	1	0	1	3	0	3	2	1	3	6	1	7

(4) 年齢状況(平成25年3月31日現在)

平均年齢

区分	男	女	平均
平均年齢	60歳	32歳	55.6歳

年齢構成

年齢(歳)	男	女	計	%
20~24	0	0	0	0
25~29	0	0	0	0
30~34	0	1	1	14
35~39	0	0	0	0

40～44	1	0	1	14
45～49	0	0	0	0
50～55	1	0	1	14
55～60	0	0	0	0
60～65	2	0	2	29
65～	2	0	2	29
人数計	6	1	7	100
最年少	43	33		
最高齢	69	33		

(5) 就労状況(人)

就労先	男	女	計
区内法内施設	3	0	3
区内作業所	3	1	4
計	6	1	7

(6) ヒヤリハット・事故

月	ヒヤリハット	事故報告	備考
4月	0件	1件	無断外泊
7月	0件	1件	無断外泊
9月	0件	1件	無断外出
10月	0件	1件	無断外出
合計	0件	4件	

事故報告は、受診・治療を継続的に行ったものをカウントしました。

(7) 感染症関係

インフルエンザ	ノロウイルス
0名	0名
アノウイルス 1名	胃腸炎 2名

グループホーム森前事業報告（共同生活援助）

1. 重点目標への対応

グループホーム森前は、開設2年目を迎え、ご家族の多大な協力を頂きながら、管理者と世話人が連携し利用者がより自分らしい生活を送れるよう温かいホーム作りに努めました。

2. サービス支援体制

グループホーム森前利用者	定員6名
世話人	2名（常勤換算）
管理者・サービス管理責任者	1名（西大井福祉園管理者兼務）
障害者部よりの協力	西大井福祉園職員
夜間支援体制	西大井福祉園 かがやき園

3. 支援報告

サービス管理責任者と世話人が利用者の情報収集に努めました。特に「食事提供」「健康管理」については、ご家族や通所施設支援員より情報提供を受けました。

(1) 食事提供

入所時のアセスメントで利用者の嗜好を調査し、利用者個々の嗜好を配慮したメニュー作り、食事の提供をすすめました。

(2) 健康管理

入所の際、ご家族や利用者の主治医より病歴や疾患に関する情報提供を受け、利用者の現状の健康状況の把握に努めました。

(3) 金銭管理

通帳・印鑑の管理状況

グループホーム森前での管理	2名
家族による管理	4名

預かり金については四半期ごとに精算、確認を行いました
（4月、7月、10月、1月の4回）

(4) 行事

実施日	行事等内容	備考
7月16日	日帰り旅行（山梨県河口湖町他）	読売旅行ツアー利用
11月10日	森前障害者施設合同防災訓練	管理者吉原参加
12月12日	防災訓練（グループホーム単独）	地震火災想定
1月 1日	新年初詣（上神明天祖神社）	未帰省者対応

利用者ミーティングを6月、7月、12月、24年3月に行いました。

(5) 家族との協力体制

家族とは必要に応じて連絡を取り合い情報交換、相談に努めました。

家族連絡会実施状況

	家族連絡会実施日	内 容
1	第1回 2月6日	23年事業報告、24年事業計画の説明、 24年度食事代等の精算について

4. 付表

(1) 利用者人員(平成25年3月31日現在)

定員	現員	内 訳			
		男	比率%	女	比率%
6名	6名	4名	66.7%	2名	33.3%

(2) 年齢状況(平成25年3月31日現在)

平均年齢

区分	男	女	平均
平均年齢	51.3歳	45.5歳	49.3歳

年齢構成

年齢(歳)	男	女	計
18~19	0	0	0
20~24	0	1	1
25~29	0	0	0
30~34	0	0	0
35~39	1	0	1
40~44	0	0	0
45~49	0	0	0
50~	2	0	2
60~	1	1	2
人数計	4	2	6
最年少	35	24	
最高齢	60	67	

(3) 就労状況(人)

就労先	男	女	計
区内法内施設	3	0	3
区内作業所	1	2	3
計	4	2	6

(4) ヒヤリハット・事故

平成24年度は、ヒヤリハット・事故ともにありませんでした。

(5) 感染症関係

インフルエンザ	ノロウイルス
0名	0名

品川区立かがやき園事業報告

1. 重点目標への対応

(1) 加齢障害者ケアに対する取り組みの継続

ケアマネジメント委員会・リスクマネジメント委員会を継続

ケアマネジメント委員会では、25年度に開設する福栄会障害者相談支援センターとの連携を図るため、障害者福祉部全体で共通のシステムと書式・ファイリングを勧める事を目標にし、年度内にフェイスシート・アセスメントシートの書式検討と作成を行いました。各施設の利用者のケースマネジメントを進めやすい環境を整える第一歩を確実に進めました。

また、障害者施設共通の課題であるリスクマネジメント・感染症予防・虐待防止等の委員会は、西大井地区連絡協議会（西大井福祉園・かがやき園・森前・かもめ第二工房）で取り組む内容を検討し、各施設に持ち帰り実施しました。

感染症予防については、感染症流行前に研修会を行いました。12月から1月にかけてノロウィルス・3月にインフルエンザの集団感染が発生しました。それぞれ法人各部署・品川区保健所の協力を得ながら収束を図る事ができました。介護知識・介護技術の向上のため研修、勉強会の年間計画を立て実施・介護福祉士の資格取得を奨励

年間を通じ、高齢化に対応するための早期発見・対応に関する研修を始め、介護技術・医療知識に参加しました。また、生活介護事業における健康管理を維持する観点から「東京都介護職員等によるたんの吸引等への実施のための研修」に4名参加しましたが、実地研修のみ年内で完了できず、次年度再講習を受ける事になりました。

介護福祉士国家試験は2名受験し合格しました。

業務・支援マニュアルのPDCAサイクルの確立

24年度業務マニュアル点検を行い25年度版として整えました。

(2) アセスメントに基づいた基本サービスの確立

加齢化、重度化に対応した日常サービスメニューの充実

加齢者のグループでは日課のなかに集団および個別の運動を積極的に取り入れ、機能低下の予防と健康維持に取り組みました。

若年者、地域移行支援対象者に対応した日常サービスメニューを確立

若年者のグループでは、利用者ごとに適切な方法での運動量を確保するため、少人数での散歩や個別に取り組む運動に重点を置き、集団活動との組み合わせにより効率的に実施しました。

また地域移行希望者については、福栄会相談支援準備室と連携し本人、保護者、それぞれの意向を確認しながら、将来的な目標と年間の取り組みを確認し、第二しいのき学園と西大井福祉園で実習を行いました。

日常サービスの充実に向け単年度単位で行事等の計画を見直し

行事や外出活動を年間計画通りに進める事により、日常活動について上記の通り成果を上げる事ができました。次年度は日常活動の充実を維持しながら、個々の社会参加を進めます

支援場面ごとの手順・課題・体制等の基準を確立

毎日の利用者の日課と職員の配置を計画する「週課日課票」を調整し、サービスの質と安全性を計りました。

(3) 計画的な人材の確保と育成計画の充実

新任職員および異動職員についてOJTを強化し、現任職員とパートナー制を組み3カ月の間計画書を作成して取り組みました。OJT対象職員の業務の習熟と指導する現任職員の振り返りを同時に行うことができ、それぞれ成果をあげました。

品川区立かがやき園短期入所事業報告

1. 重点目標への対応

(1) 利用開始時のアセスメントの充実と、サービスの向上

初回面談時にサービス管理責任者が聞き取った基本情報の共有を図るとともに、介護上の情報が更に必要な利用者については、利用前に日中活動場所へ出向き実際の介護場面の確認等を行いました。

(2) ご家族の入院など、緊急時の利用の積極的な受け入れ

5月から10月の間、緊急短期入所体制確保加算を算定しこの間に3件の緊急入所を受け入れました。その後算定要件から外れたため、加算は取り下げましたが緊急枠を確保したところ11月から3月までにさらに4件の緊急入所の受入を行いました。

かもめ第一・第二・第三工房事業報告（就労継続支援B型）

1. 重点目標への対応

（1）ケアマネジメント体制の確立

生活支援センター「たいむ」との連携をより充実することで利用者情報の共有化が図られ、関係各署も含めた迅速かつ的確な利用者支援を提供できる体制作りを行ないました。

（2）職員のスキルアップ

関係機関が開催する研修会などに出来る限り参加を行なうとともに、精神保健福祉・障害状況についてなど内部での勉強会を実施、職員のスキルアップへの取り組みを行ないました。

（3）安定的な施設運営

生活支援センター「たいむ」を窓口とすることで、新規施設利用を希望する利用者のストレスの軽減や施設への適応への助言などトータル的に支援を行なうことで利用定着を進めました。

（4）業務内容の整備

3事業所の統一化・平準化を目指して各種マニュアルの整備を行なっているが、未整備のものや見直しが必要なものなども多くあるため、引き続き取り組んでいきます。

2. 各所利用者状況（平成25年3月31日現在）

（1）利用者人員

施設名	定員	在籍者数	内訳			
			男子	比率%	女子	比率%
第一	20	37	23	62%	14	38%
第二	20	33	18	55%	15	45%
第三	20	36	21	58%	15	42%

（2）入退所状況

施設名	在籍者数 (H24.4)	増	減	年度末 在籍数	退所者理由	
第一	35	7	5	37	就労 1名 状態悪化 1名 参加拒否 0名	他サービス 0名 死亡 0名 その他 4名
第二	32	4	4	32	就労 0名 状態悪化 2名	他サービス 0名 死亡 0名

					参加拒否 2 名	その他	0 名
第三	3 6	6	6	3 6	就労 2 名	他サービス	0 名
					状態悪化 2 名	死亡	0 名
					参加拒否 1 名	その他	1 名

(3) 年齢構成

施設 / 年齢		1 0 代	2 0 代	3 0 代	4 0 代	5 0 代	6 0 代
第一	男	0	0	1 0	5	4	4
	女	0	3	4	3	2	2
第二	男	0	0	4	6	6	2
	女	0	3	2	5	4	1
第三	男	0	4	5	5	7	0
	女	0	3	3	8	1	0

(4) 平均年齢

施設 / 年齢	男 (平均)	女 (平均)	平均年齢	最年少者	最高齢者
第一	4 5 . 0	4 2 . 4	4 4 . 0	2 3	6 4
第二	4 7 . 4	4 3 . 1	4 5 . 1	2 6	6 3
第三	4 1 . 6	3 9 . 7	4 0 . 8	2 3	5 8

(5) 障害状況

施設 / 等級	1 級	2 級	3 級	非該当	重複障害	合計
第一	1	2 4	7	5	3	4 0
第二	5	1 4	8	5	0	3 2
第三	1	2 4	8	3	2	3 6

(6) 生活状況

施設 / 状況	障害年金受給者	無年金者	未申請者・非該当者	生活保護受給者	家族同居	単身者
第一	2 6	6	5	6	2 6	1 1
第二	2 4	4	4	7	1 9	1 3
第三	2 4	0	1 2	5	3 0	6

(7) 利用状況 (平成 2 4 年 4 月 ~ 平成 2 5 年 3 月)

施設 / 状況	年間開所日	通所延べ人数	通所者人数	利用率
第一	2 4 6 日	5 , 3 8 0 人	5 , 2 7 6 人	9 8 . 1 %
第二	2 4 6 日	5 , 3 8 0 人	4 , 5 2 5 人	8 4 . 1 %
第三	2 4 6 日	5 , 3 8 0 人	5 , 1 2 1 人	9 5 . 2 %

要通所延べ人数及び利用率は国基準による数値で示してあります。

3. 作業状況（平成24年4月～平成25年3月）

（1）館内清掃

No	施設名称	作業スケジュール	分担
1	品川児童学園	週5回	第一工房
2	北品川つばさの家	週5回	第一工房
3	品川区立西大井福祉園	週5回	第二工房
4	家庭あんしんセンター	週5回	第三工房
5	西大井六丁目第三区営住宅	月1回	第三工房

（2）公園清掃

No	公園名	作業スケジュール	分担	面積(m ²)
1	源氏前公園	月・水・金(週3回)	第一工房	1,069
2	源氏前特定児童遊園	月・水・金(週3回)		334
3	ごこう広場	月・水・金(週3回)		58
4	弁天通公園	月・水・金(週3回)		663
5	中六桜広場	月・金(週2回)		166
6	庚申公園	月・水・金(週3回)		492
7	荏原町公園	月・水・金(週3回)		883
8	平塚公園	月・金(週2回)	第二工房	1,320
9	西五反田6丁目児童遊園	月・金(週2回)		296
10	にしよん広場	月・金(週2回)		346
11	西五反田4丁目児童遊園	月・金(週2回)		41
12	西五反田公園	月・金(週2回)	第三工房	2,262
13	本三くじら公園	月・水・金(週3回)		159
14	かむろ坂公園	月・金(週2回)		1,131
15	谷山公園	月・金(週2回)		775
16	亀の甲児童遊園	月・金(週2回)		157
17	西中延公園	月・金(週2回)		345
18	荏原西公園	月・金(週2回)		365
19	中原公園	月・金(週2回)		419
20	中原東公園	月・金(週2回)		348
21	小山四丁目児童遊園	月・金(週2回)		222
22	荏原児童遊園	月・金(週2回)	146	

（3）自主製品イベント販売

No	販売実施日	場所	行事名称
1	4月7日(土)	東品川海上公園	品川運河まつり

2	4月22日(日)	都立林試の森公園	林試の森フェスタ
3	5月8日(日)	福栄会本部	福栄会まつり
4	5月27日(日)	さくら会南大井	さくらまつり
5	5月27日(日)	しながわ中央公園	エコフェスティバル
6	5月27日(日)	品川総合福祉センター	五月まつり
7	5月9日(土)	西大井福祉園	そよかぜまつり
8	6月10日(日)	京陽公園	住宅まつり
9	7月6日(金)	きゅりあん	子育てメッセ
10	7月14日(土)	港特別支援学校	みなと夏まつり
11	7月19日(木)	生活支援センターたいむ	ハワイの集い
12	7月22日(日)	青鳥特別支援学校	青鳥夏まつり
13	7月28日(土)	西大井広場	品川納涼祭
14	8月23日(金)	かがやき園	かがやき納涼祭
15	8月25日(土)	洲崎公園	東親会夏まつり
16	8月25日(土)	成幸ホーム	成幸まつり
17	9月22日(土)	中小企業センター	福祉まつり
18	9月25日(火)	荏原病院デイケア室	荏原デイケアバザー
19	9月30日(日)	旧東海道	宿場まつり
20	10月6日(土)	シンクパーク	品川夢さんばし
21	10月9日(火)	品川シーサイドオーバルガーデン	福祉施設による販売会
22	10月14日(日)	都立林試の森公園	林試の森フェスタ
23	10月18日(木)	きゅりあん	ふれあい寄席
24	10月20日(土)	生活支援センターたいむ	たいむ秋まつり
25	10月20日(土)	富士見が丘児童遊園	西大井5丁目イベント
26	10月27日(土)	品川総合福祉センター	紅葉まつり
27	10月28日(日)	三光教会	三光教会バザー
28	10月28日(日)	新東京歯科衛生士学校	鈴が森祭
29	11月4日(日)	さくら会南大井	さくら会まつり
30	11月6日(土)	品川菜園	秋の収穫祭
31	11月8日(木)	イトーヨーカドー	いいものめぐり
32	11月18日(日)	さくら会西五反田	もみじまつり
33	11月23日(金)	東京都立城南職業能力開発センター	技能祭
34	11月24日(土)	中小企業センター	大商業祭
35	11月25日(金)	春光福祉会	春光会まつり

36	12月8日(土)	東戸越保育園	東戸越保育園冬まつり
37	12月9日(日)	きゅりあん	障害者記念の集い
38	12月19日(水)	NEC ネットエスアイグループ	NEC 販売
39	2月16日(土) 17日(日)	きゅりあん	消費者生活展
40	2月23日(土)	きゅりあん	社会貢献活動
41	3月1日(金)	生活支援センターたいむ	たいむ交流会
42	3月6日(土)	学研	学研販売

その他毎月第三木曜互助会バザー、年6回東京医療保健大学内での販売実施

(4) 工賃支給状況

施設	年間総支給額	支給対象延べ人数	平均金額
第一	4,049,360円	415	9,757円
第二	2,522,056円	337	7,483円
第三	5,299,926円	453	11,699円

5. 運営状況(平成24年4月～平成25年3月)

(1) 安全管理状況

施設	発生件数	発生内容
第一	0件	
第二	0件	
第三	0件	

(2) 実習生受け入れ状況

受け入れ機関名称	受け入れ件数
東京医療保健大学	78件
東京医科歯科大学	12件
品川介護専門学校	10件
品川区ケア協議会	19件
東京福祉専門学校	52件
東京福祉大学	45件

(3) ボランティア受け入れ状況

施設	作業補助	昼食作り	行事
第一	6名	0名	0名
第二	3名	4名	0名
第三	4名	0名	0名

品川区精神障害者地域生活支援センター事業報告

1. 重点目標報告

障害者自立支援法に基づく、相談支援事業者および地域活動支援センター 型の事業者として、次の事項を重点目標に活動しました。

(1) 相談支援事業の充実

平成24年度から、指定特定相談支援事業者として精神障害者の自立した生活を支え、様々な課題の解決や適切なサービス利用に向けて、サービス利用計画を作成し、地域での生活支援を図ってきました。平成24年度はホームヘルプ利用の方を対象に実施し、今後は通所系のサービス利用者に計画相談を実施し、順次、全相談者に計画相談を拡充させてまいります。

(2) 精神障害者の交流・生活支援機能の充実

オープンスペース(交流室)利用者は一日平均17人で、他者との交流や生活リズムを整える等目的で実施しております。写真同好会等各種の自主活動等行い、利用者同士の交流や仲間づくりが図られています。

ボランティアの方の協力は必須で、ボランティアの有無により利用者の参加に差がある程です。

(3) 地域との関係づくり

年5回の地域交流会を行っています。精神障害への理解深める事と地域生活支援センターの役割と協力を周知するために大切な事業となっております。3月には「最近のしごと事情～精神障害と共存して働く～」をテーマにシンポジウムを実施し、就労への道すじを感じられる会でした。50名位の参加があり、盛況に終わることが出来ました。継続して参加して下さる地域の支援者やボランティアの方も徐々に増えてきております。

(4) 品川区関係機関連絡会

平成23年度から隔月に精神障害者を支援する関係機関(保健センター・かもめ工房・障害者福祉課・グループエヴァ・地域生活支援センター等)が、事例検討と精神保健福祉の課題等についての検討を行いました。事例を通して関係機関の連携や情報の共有化につながりました。この会は平成24年度から区の自立支援協議会の下部組織で定例会と位置づけられました。

2. 5年間の登録状況

(平成25年3月末現在)

年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
登録状況	179人	249人	325人	365人	223人

3. 一般相談支援事業

こころの病を持った方が、地域で生活していく上での困りごとや、悩みごとについて、いつでも相談を受け付けています。

電話・来所による面接・訪問相談・他機関への同行による相談等で、必要に応じて、障害者福祉課や保健センター等の区の機関、訪問看護ステーションやホームヘルプ事業所等の関係機関と連携・調整を行いながら相談を進めました。

また、ピアカウンセリング（個別）月1回、当事者が相談に応じるピアカウンセリングを実施しています。カウンセラーが同じ障害を持つ人として、安心して相談しています。

（1）相談件数（相談方法別・相談内容）の状況（平成24年度）

方法	件数（延）	内容	件数（延）	内容	件数（延）
電話相談	4,749	生活関係	2,587	医療関係	678
面接相談	646	金銭関係	72	制度関係	646
訪問 *注	309	家族関係	150	住宅関係	108
同行支援	70	対人関係	325	その他	356
文書相談	48	就労関係	691	合計	5,813件

（2）ホームヘルプ利用者の状況（性別・年齢別・障害程度区分別・援助内容別）

利用者数		43人
援助内容	家事援助	43件
	身体介護	5件
モニタリング件数		200件
<ul style="list-style-type: none"> ・24年度新規利用者：10名 ・障害程度区分は区分1と2が9割を占め、週1～2回 1～2時間程度が多い。 		
性別	男性	17人
	女性	26人
年齢別	20代	2人
	30代	5人
	40代	16人
	50代	10人
	60代	9人
障害程度区分	区分1	15人
	区分2	25人
	区分3	2人
	区分4	1人

4. 地域活動支援センター事業

（1）地域交流活動室（オープンスペース）の提供

地域交流活動室は登録者が、自由に利用できる場で月・木が9時から20時まで、

火・水・金が9時から17時まで、第一・第三土曜は10時から15時まで利用できます。誰かと話をしたい、生活リズムを維持したい、居場所として通いたい、家に居たくない等様々な目的で利用しています。自主活動やボランティア活動も主としてこのスペースで行われており、各種のクラブ活動や交流に協力していただきました。なお、25年度からは土曜開所から祝日開所に変更いたします。

(2) 自主活動の状況

年度	延べ人数	実施回数	平均(人)
21年度	818人	208回	3.9
22年度	592人	181回	3.3
23年度	601人	140回	4.3
24年度	695人	128回	5.4

(3) 生活支援

食事(昼・夕食)のサービス(有償)

地域生活支援センターの登録者で希望する人は、かもめ第三工房の昼食を利用することができます。また、月2回の夕食会を実施し、一回10人前後の人が利用しています。

入浴設備の利用

自宅に風呂がない人等で入浴希望のある利用者は、たいむでシャワーや入浴することができます。現在、定期的に利用している人が数人います。

(4) 施設の利用状況

内容	利用者数(延人数)	1日当たり(人)
地域交流活動室	4,511	17.0
入浴設備利用	272	1.0
昼食(有償)	962	4.2
夕食(有償)	264	22.1

(5) グループミーティングの実施

地域生活支援センターの利用について話し合う「たいむミーティング」と就職を目指す人たちの「しごとミーティング」のほか、女性ならではの悩みや問題について話し合う場「レディースたいむ」も実施しています。地域生活支援センター登録者で平成24年度に一般就労した人は7人でした。

(6) グループミーティングの状況

グループ名	回数	参加者数(人)	一回平均(人)
たいむミーティング	11	83	7.0
しごとミーティング	11	64	5.8
レディースたいむ	11	11	0.9

5. 地域交流事業

精神障害者に対する正しい理解が得られることと、地域の人に施設に親しみを持っていただくことを目的に交流会を実施し、地域の人と利用者が、交流できるようにしました。また、地域生活支援センターではクラブ活動や地域交流活動室での話し相手として、地域のボランティアの方が活動しています。お話しの傾聴やクラブ活動等において指導していただいています。24年度は、延べ346人の方に協力いただきました。

(1) 地域交流会開催状況

回	開催日	内容	参加者数(内地域の人)
第1回	4月24日(火)	お花見お茶会	24(11)
第2回	7月29日(木)	ハワイアンの集い	12(6)
第3回	10月20日(土)	秋祭り	76(7)
第4回	12月20日(木)	キャンドル飾りを作ろう	12(3)
第5回	3月1日(金)	最近のしごと事情	47(11)
合計			171(38)

(2) ボランティア活動状況

学生ボランティア	実人員 3人	延べ人員 88人	月平均 29.3人
一般ボランティア	実人員 7人	延べ人員 146人	月平均 20.8人
合計	実人員 10人	延べ人員 234人	月平均 23.4人

6. 研修状況

研修名	日時	参加人員	施設
東京都障害程度区分認定調査研修	5月7日(土) 5月10日(火)	2名	東京都社会福祉保健医療研修センター
東京都相談支援従事者初任者研修	10月20日(土) ～1月12日(土) までの間の9日間	1名	日本福祉教育専門学校等
精神保健福祉研修(後期)	11月12日(金)	1名	東京都社会福祉保健医療研修センター
精神保健福祉研修(後期)	12月3日(月)	1名	東京都社会福祉保健医療研修センター
精神保健福祉研修(後期)	12月12日(木)	1名	東京都社会福祉保健医療研修センター

児童福祉部事業報告

1. 基本方針の遵守

(1) 利用者を中心とした相談・支援

児童の最善の権利と基本的安全を事業の原点とし、施設の利用者をはじめ区民の相談を真摯に受け止め対応しました。専門的な技術や社会資源を活かし、一人ひとりが持っている力を発揮できるように支援してきました。

(2) 地域の人々とのつながりを大切にし、地域に開かれた施設運営

福祉・教育・医療・保健等各分野の関係機関や地域福祉の支えてとなる民生・児童委員、主任児童委員と緊密な連携を図りました。

(3) 理解者・協力者の拡大

法人の児童福祉事業の目的・専門技術・専門知識を広報活動や公開講座等を通じ、より多くの区民に理解してもらおうと共に支援の協力者を増やすよう努めました。

2. 重点目標への対応

(1) 地域の中核的な療育施設としての専門機能の発揮

(旧子ども発達相談・旧知的障害児通園施設)

品川児童学園については児童福祉法の改正に伴い、名称を「児童発達支援センター」へ移行し、事業としては相談部門と通所部門として新たに出発しました。

(2) 児童発達支援事業(旧児童デイサービス事業)の体制

品川児童学園では平成24年度は旧児童デイサービス未就学児を対象とした「児童発達支援事業」と、旧児童デイサービス学齢児を対象とした「放課後等デイサービス」の2つに分けて事業を展開しました。

(3) 養育支援訪問事業の体制づくり

家庭あんしんセンター・子育て支援センターで実施している養育支援訪問事業の枠組み作りについて、品川区子育て支援課と協議しながら進めてきました。平成24年度は厚生労働省のガイドラインを参考に独自の調査シートを作成しました。シートの利用は平成25年度からの予定です。

品川区立家庭あんしんセンター事業報告

品川区ひまわり荘事業報告

平成24年度当初の世帯数は14世帯で年度中に4世帯が新規に入所、9世帯が退所し、述べ18世帯がひまわり荘を利用しました。

1. 重点目標への対応

(1) 自立支援計画の充実

子どもの支援計画と世帯ごとの自立支援計画作成し、支援に取り組みました。後期には支援計画のモニタリングを行い、支援計画の見直しを行いました。

(2) 自立に向けた重点支援

安定した収入確保のための就労支援

入居者（休職者以外）はおおむね安定した就労状況にありました。その中で、新規就職や転職支援を行いました（以下具体的な就労支援内容）。

ア パートタイム労働において就労時間と支払給与額の確認の習慣ができていなかった利用者に対して正しい給与額が支払われているか確認の習慣をつけるための支援。

イ 就労契約期間が終了する利用者には再就職のための求人情報提供。

ウ スキルアップの相談や就労先でのストレスの聞き取り、アドバイス。

住宅確保のための支援

ア 都営住宅への申し込みの情報提供と相談。

イ 民間住宅の物件探しと情報提供。

ウ 必要な書類作成の支援

エ 物件下見への同行、転居準備の支援、転居当日の支援、等。

(3) 退所者へのアフターケアの充実

子どもの学習に対して地域資源調査や結びつけ。

子どもの進路の確認や相談。

カウンセリングに通う母親へカウンセラーと連絡を取り合い安定に向けての支援
外国籍の母親へ学校からの配布物の説明や学校との調整。

(4) 地域資源との連携強化

アフターケアの場面で学校、地域のボランティアとの協働や依頼の場面がありました。また、町会の祭礼や旅行などの行事に利用世帯の参加が見られました。品川区担当部署（子育て支援課、生活保護世帯入所している場合は生活福祉課）との連絡会、ミニ勉強会「新しい在留管理制度について」「養育費について」を実施した。

2. 事業内容

(1) ひまわり荘年間行事

月	日	曜日	行事名	内容	参加人数
4	12	木	春を呼ぶ会	互助会・職員紹介・食事会	母12名・子12名
5	5	土	端午の節句	記念撮影	子18名
7	7	水	七夕	短冊飾り	母13名・子17名
8	19	日	夏祭り	地域交流・退所者招待	母13名・子23名
10	21	土	日帰り研修	バスハイク 東武動物公園	母8名・子9名
11	18	日	母のリフレッシュ	アロマテラピーとハンドマッサージ	母7名・子8名
12	23	日	年末お楽しみ会	クリスマス会	母6名・子9名
1	13	日	新年お楽しみ会	食事会、漫才、獅子舞演舞	母5名・子7名
2	3	金	節分	各居室で豆まき	母5名・子7名
3	4	日	ひな祭り会	クラフト、写真撮影	母10名・子14名

(2) 学童保育の年間行事

月	日	曜日	行事名	参加人数	内容
4	7	土	進級進学お祝い会	2名	進級・進学お祝い会
5	12	土	母の日行事	17名	プレゼント作り
	13	日	福栄会まつり ピクニック	3名	福栄会祭り参加、弁当作り、公園にてあそぶ
6	24	日	デイキャンプ	3名	若洲キャンプ場にてバーベキュー
7	20	金	宿泊行事	5名	お泊り会、銭湯体験
	21	土			
8	3	金	夏キャンプ	3名	あきる野市「落合キャンプ場」
	4	土			
10	13	土	アスレチック	5名	平和の森アスレチック
	25	木	夕食作り	7名	食育
12	6	木	夕食作り	7名	食育
1	4	金	新春あそび大会	4名	初詣&新春あそび大会
2	9	土	季節行事	4名	バレンタイン「チョコ作り」
	22	金	食事会	10名	食育のまとめとして、家族を招待

3. 支援の具体的内容

(1) 子どもの育ちへの支援

乳幼児への支援

所内保育については入居している対象児は全員保育園の利用ができており、ひまわり荘の所内保育の実施はありませんでした。

補助保育は延べ人数7名、病後時保育は延べ人数4名の利用がありました。

学童への支援

小学生を対象にして月曜日から土曜日の間、学習指導や遊び、活動を通じた生活指導を行いました。また、学童を対象とした行事も行いました。平成24年度は食育をテーマにした行事を行いました。

高齢児への支援

希望者への進路相談や学習指導を実施しました。

(2) 生活への支援

支援の基本姿勢を遵守し利用者の安心と安定に重点を置き支援に当たりました。基本的な生活の支援・債務整理・健康面・就労など支援内容は多岐にわたりました。

また、在所する母親の集まりとして毎月1回午後7時～8時に互助会を開き、共同生活上のルール・都営住宅の募集など自立に向けての情報提供、季節行事や学童行事のお知らせのほか、地域行事へのお誘いなどの情報提供を行いました。

防災について緊急一時避難場所の確認やAEDの使用方法の実技なども実施し、万が一の場合に備えました。また、母親同士の子育てに関する情報交換の場となるよう会を運営しました。

支援にあたっては、区の子育て支援課・生活福祉課とは密接に連携し毎月連絡会を開く他、母子の自立に向けての個別面談を年間2回実施しました。子どもにとって安全な生活環境を保つため面談は各居室で行い、生活状況を確認することができました。

健康診断は2回実施しました。必要に応じて嘱託医への相談や病院への同行を行いました。

(3) 自立支援方針策定

入所から支援の手順書に従い、常に利用者と共に進めることを徹底して取り組みました。24年度は母親の支援計画の他に、子どもの意見を汲んだ子どもの支援計画作成を行いました。

(4) 退所後のアフターケア

退所者へのアフターケアとして次のような内容の支援を行いました。

子どもの学習に対して地域資源調査や結びつけ。

子どもの進路の確認や相談。

カウンセリングに通う母親へカウンセラーと連絡を取り合い安定に向けての支援。
外国籍の母親へ学校からの配布物の説明や学校との調整。

(5) 緊急一時事業

24年度は5世帯、延べ利用日数67日の利用を受け入れました。問題解決の支援を行い、地域での生活へ移行しています。

4 . 地域との交流、関係機関との連携

地元町会が主催する「お花いっぱい運動」に協力し、施設の外周部に町会から借り受けたプランターと苗を活用し、地域環境の向上に協力しました。また、地域のお祭りに電源の供給等間接的な協力を行いました。

5 . 事故防止策・防災対策

ひまわり荘年間予定のとおり建物保守管理を実施しました。また、不具合の生じた機器に関しては、品川区子育て支援課と協議しながら対応しました。

また、品川区により非構造部材耐震化点検が実施され、必要な個所の処置を行いました。毎月1回の防災訓練を利用者参加の下、実施しました。また、各世帯に防災袋を配布して訓練の時にも持参するようにしました。

品川区子育て支援センター事業報告

平成24年度の相談件数は3482件となり、昨年度より減少しています。推測される理由の一つは、子育て支援課に「しながわ見守りホットライン」が設置され、区民の相談がホットラインに入るようになったこと、また学校、幼稚園、保育園、保健センターが要保護児童対策地域協議会の中核機関である子育て支援課児童相談係に直接連絡をするようになった事が大きく影響していると考えられます。

1. 重点目標への対応

(1) 子育て広場の運営の見直し

昨年度に引き続き、毎週火曜日11時から親子参加事業を開催しました。

(年間実施回数 46回 延べ参加者 292人)

子育て相談を継続的に利用している親子の参加や事業終了後に個別相談をする利用者がでてきました。

(2) リスク管理能力と支援力の向上

毎週1回のケース進行報告、月1回全ケース進行管理会議、月1回スーパーバイザーを交えてのケースカンファレンスという3本の柱で、ケースのリスク管理と支援の質幸向上の取り組みを行いました。特に、新規に相談が継続になるケースについては、支援計画書を作成しました。

(3) 養育支援訪問事業の検討

厚生労働省のガイドラインを参考に独自の調査シートを作成しました。シートの利用は、来年度からの予定です。

品川区子育て短期支援事業報告(ショートステイ・トワイライトステイ)

1. 重点目標への対応

業務の標準化の一環として防災訓練を定期的に行いました。

2. 利用実績

ショートステイ	延べ人員	20名	延べ利用泊数	84泊
トワイライトステイ	延べ人員	435名	延べ利用泊数	3524日

サービス周知のために、新年度を迎える前に保育園に事業の案内を送り、利用希望者向け説明会を実施しました。

平塚ファミリー・サポート・センター事業報告

地域の中でお互いに助け合いながら子育てをする相互援助活動を行い、子育ての支援と児童福祉の向上を図ってきました。

1. 重点目標への対応

(1) 新規提供会員登録の拡大

提供会員養成講座を昨年度同様5回開催しました。新規の提供会員の登録は7名。しかし、年度末には退会する提供会員もあり、年間3名の提供会員の新規登録にとどまっています。

(2) 防災(地震)対応の具体的取り組みの充実

「防災のしおり」の周知と「災害(地震)時の具体的対応確認書」作成の協力について顔合せの都度、会員に説明し、会員の理解を得ることができました。

(3) 活動のフォロー体制の継続

昨年度同様、新規活動については、安全で安心した活動となるよう初回活動終了時に、提供会員に活動状況の確認電話をいれ状況の把握に努めました。また、必要な場合は、定期的に会員から話を聞いて活動のモニタリングをするとともに、活動内容調整や提供会員へのアドバイザーのフォローを行ってきました。

「ヒヤリ・ハット」事例の活用

事故防止・改善に役立つ情報を提供会員研修会・提供会員交流会等で取り上げ、危険察知の目を養うなど事例を活用しました。会員にあてた「ファミサポ通信」に事例を紹介し、提供会員だけではなく依頼会員の安全意識を高める働きかけをしました。

平塚きぼう荘(障害者住宅)

併設されている平塚きぼう荘設備管理を行い、居住者が緊急の場合などに、必要な支援を行いました。

品川区立品川児童学園事業報告 児童発達支援センター事業報告 (旧知的障害児通園施設・旧子ども発達相談)

通所部門では4月に17名、11月に1名の新入園児を迎え入れ、在籍児27名(8月に1名転園児含む)に対して療育を行いました。在籍児27名の利用率は3月には104%を越え、年間平均利用率は95.6%でした。子ども発達相談では、相談件数が4120件(前年比16%増)で、多種多様な相談内容を受け止め、区の障害者福祉課や区内の他機関との連携を図り、相談を充実しました。

1. 重点目標への対応

(1) 地域の中核的な療育施設としての地域支援の充実

これまで通所のみで行っていたセラピストによる専門相談を発達相談部門に置き、施設の有する専門機能を活かして、利用児のニーズに応えました。

保育園や幼稚園等の巡回要請を受け、指導員・相談員を派遣し専門的な支援方法により援助しました。

(2) サービスの質の向上について

通所部門では、年度末に利用者アンケートを実施し、100%の方から良い評価を得ました。併せて、研修・保育所等への実習を行い、支援員の質の向上に努めました。

(3) 児童発達支援センター移行に伴う業務標準化への取り組み

相談部門と療育部門の連携を図り、事業の円滑な取り組みを実施しました。

2. 支援の内容

乳幼児からの子どもの健全な発達を支援するとともに、対応に難しさがある子どもに対し、成長段階ごとの特性と課題を踏まえて保護者が見通しをもった子育てが行えるように支援しました。

特に、就学に向けて身辺自立を中心とした支援と子どもの特性を活かした療育、基礎体力作りを利用者に理解を得ながら進めました。

<旧知的障害児通園施設>

(1) 集団療育

食事、排泄、着脱など、個々の基本的な生活習慣に着目し、身辺自立の確立を目指しました。また、日々の療育の中で、教材や教具、園庭等の施設設備を活用し、基礎体力を養いました。

(2) 個別療育

個々の発達に応じた支援を、保護者も含めて実施できる場を設けるほか、

保護者の療育支援の場としました。

(3) 親子集団療育

親子遊びをすることで、親子のコミュニケーションやほかの家族との交流を図りました。また、活動を通して保護者が子育てに対し、自信をもてるよう支援しました。

(4) 専門相談

医師や療法士による個別の相談及び指導を実施し、クラス担任と連携を図りながら、個々の発達を援助しました。

(5) 保護者支援

保護者との連携を図るために、個別面談及び各種学習会を行い、事業の概要及び障害への理解を深める支援をしました。

<旧子ども発達相談>

(1) 発達に関する相談窓口

受け付けた相談は的確なアセスメントを行い、保護者のニーズと子どもの発達段階に応じた相談、支援を行うとともに、子どもにあった療育機関に繋ぎました。

(2) 個別相談・グループの相談内容

療育機関につながる前の保護者と子どもへの支援については、利用児が増え、グループの増設・初回面談後の相談枠を拡充して対応しました。

3. 地域との交流、関係機関との連携

障害児に対する理解を深めるため、関係機関と連携を持ち、開かれた施設を目標に、地域療育を実践し地域貢献を行いました。

4. 事故防止策・防災対策・感染症防止対策・運行対策

(1) 事故防止策

園内の危険箇所の点検及び改善について、職員に周知し、緊急時の対策として職員の連絡網の整備を行いました。また、保護者と園児に対しては、東日本大震災を想定した津波避難訓練や引取訓練を実施しました。

(2) 防災対策

防災計画に沿って避難訓練を内容、時間設定に変化をつけ毎月1回実施しました。火元責任者を園内各所に掲示しました。

消火器の定期点検を規定に沿って実施しました。

非常食については法人規定の備蓄と、区からの避難場所としての防災備蓄を行いました。

(3) 感染症防止対策

園内での利用児の感染症は、インフルエンザ等が1、2名出ましたが、状況を

判断しながらマニュアルに沿って努めた結果、感染の防止ができました。

(4) 通園バスの運行と安全管理

添乗職員は、乗車園児の安全確保に重点を置き、通園バスの運行を実施しました。

児童発達支援事業（旧品川区児童デイサービス）

1．基本方針の遵守

児童発達支援事業では、発達相談からの未就学児の移行がほとんどのため、事業間連携が円滑に行われました。放課後等デイサービスでは、学齢児を対象に学校や親からの要望の中でインテークを行い新規利用につなげました。

また、過去5年間の実績を活かし、グループで行ったプログラムを年齢別のプログラムにまとめ、作成しました。

2．重点目標への対応

（1）支援内容の充実

児童福祉法に則った支援体制を組み、年齢別プログラムを提供しました。保護者に対しては、子どもへの理解を深めるための相談を充実しました。

（2）児童発達支援事業への円滑な移行

旧児童デイサービスは、平成25年度からの本格実施に向け未就学児と学齢児の2種類に分け、事業を展開しました。

（3）関係機関との連携

次年度に向けた体制づくりを行い、各関係機関との連携を強化し、発達障害児への支援に努めました。

3．支援の具体的内容

（1）個別支援計画の作成と評価

インテークについては、随時行い、アセスメントを実施した後、個別支援計画を作成し、6ヶ月に一回のモニタリングを基本に評価を行いました。

（2）プログラムの内容

グループプログラム

児童発達支援事業では、年少、年中、年長、保育（年中と年長の合同）の枠（4つのカテゴリー、8グループ）をつくり、年齢・発達に応じたグループ編成を行い、子どもが自信を持って集団活動に参加できるよう、プログラムを実施しました。放課後等デイサービスでは、低学年、中学年、高学年の枠（3つのカテゴリー、7グループ）に分け、集団参加に必要な基本的な対人行動の習得と、子どもの自尊感情、他者に対しての肯定的な感情を育むことを目指したプログラムを実施しました。高学年グループについては、24年度をもって終了となりました。

個別プログラム

児童発達支援事業は、グループプログラムと並行して未就学児を対象に個別

プログラムを、必要な利用児に対して課題を設定して実施をしました。

(3) 個別面談

児童発達支援事業および放課後等デイサービスにおいては、保護者に対して、日常の家庭での対応方法や療育方法について一緒に考え支援してきました。

4. 関係機関との連携

(1) 子どもの所属機関との連携（幼稚園、保育園、小学校等）

利用児が基礎集団とする幼稚園へ定期的に巡回し、子どもと保護者と基礎集団の職員を援助しました。

(2) 特別支援教育や、すまいるスクール等との連携

当該施設と利用児が併用する他の施設との連携を図り、利用児の支援に努めました。

(3) 保健所や医療機関等との連携

保護者の要望に応じて、医療機関を紹介することで利用児支援を充実させました。

5. 地域連携の促進

地域療育連絡会へ参加・研修・見学を実施することで、療育の質の向上に努めました。

6. 事故防止策・防災対策

(1) 事故対策

園内の危険箇所の点検及び改善について、職員に周知し、緊急時の対策として職員の連絡網の整備を行いました。

(2) 防災対策（児童発達支援センターと合同で実施）

児童学園内の各事業所合同で、年間防災計画に基づいて図上訓練および毎月の避難訓練を実施しました。

(3) 感染症防止対策

感染防止マニュアルに沿って、感染の予防に努めた結果、利用児の感染は見られませんでした。